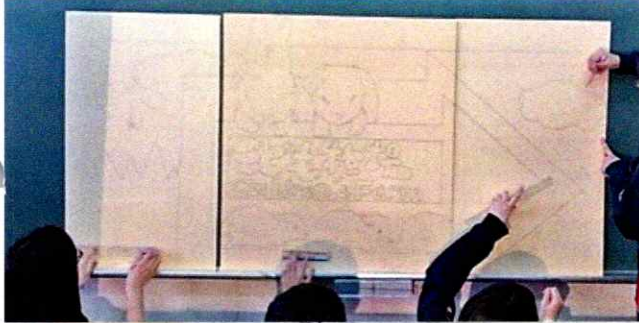


# 第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会



## 大会研究テーマ 『「わたし」を映す』

開催日 2019年7月30日(火)  
場所 旭川市立永山中学校

主催 ○北海道造形教育連盟

○第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会実行委員会  
(旭川市教育研究会図工・美術部 上川造形教育研究会  
留萌地方美術教育研究会 宗谷造形教育研究会)

後援 ○北海道教育委員会  
○旭川市小学校長会  
○旭川市教育研究会  
○北海道私立幼稚園協会旭川支部

○北海道教育厅上川教育局  
○旭川市中学校長会  
○上川管内教育研究会

○旭川市教育委員会  
○上川管内校長会



# 目次

## 挨拶

- 北海道造形教育連盟会長 札幌市立宮の森中学校 校長 森長 弘美
- 道北ブロック大会実行委員長 美瑛町立美馬牛小学校 校長 吉中 博道

## 祝辞

- 北海道教育庁上川教育局 局長 河野 秀平 様
- 旭川市教育委員会 教育長 黒蕨 真一 様

- 大会日程・公開授業・分科会一覧
- 開閉会式次第
- 会場案内図
- 造形まつりブース一覧
- 美術館鑑賞
- セッション

## 研究概要

- 北海道造形教育連盟研究主題 北海道造形教育連盟研究部長 中村 珠世
- 道北ブロック大会研究主題 道北ブロック大会研究部長 桑村 美由紀

## 学習指導の概要

- 幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 高校学校

## 規約・研究のあゆみ・地区サークル・名簿

- 北海道造形教育連盟規約
- 研究のあゆみ
- 令和元年度 北海道造形教育連盟名簿
- 地区サークル名簿
- 道北ブロック大会役員一覧
- 全道造形ネットワーク地区サークル紹介

## ご挨拶



北海道造形教育連盟 会長 森 長 弘 美

『わたし』を映す」を研究テーマは、第69回全道造形教育研究会道北ブロック大会が、全道各地からご参加の皆様とともに盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、大会開催にあたりご支援いただきました、北海道教育庁上川教育局、旭川市教育委員会、上川・旭川・留萌・宗谷各管内の関係の皆様、ご尽力いただきました上川造形教育研究会、旭川市教育研究会図工美術部会、留萌地方美術教育研究会、今年度発足の宗谷造形教育研究会、そして会場をご提供いただきました旭川市立水山中学校の皆様方に深く感謝申し上げます。

さて、平成29年3月に示された学習指導要領が、いよいよ来年度、小学校での全面実施を迎えます。さらに、中学校は令和3年度、高校は令和4年度の実施が近づいてまいりました。先駆けとなる小学校では、これまでの2年間、新しい教育課程づくりが急がれてきたことと思います。

今回の改訂で「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱に整理された資質能力を、図工・美術においてどのようにして身に付けさせるのか、おそらく各学校・各地区サークルでは、さまざまな議論が交わされたのではないのでしょうか。

殊に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてどんな授業を展開するのかということは、大きな課題であったのではないかと思います。しかし、私たちが進めてきた造形教育は、まさにこの「主体的・対話的で深い学び」を形にしたものと考えられます。子どもの豊かな発想を常に大切に、自分や他者との対話の中で創造性を高めてきた図工・美術では、今まで積み上げてきたものを打ち消して新たなものを作るのではなく、今回の改訂のポイントにもあるように「これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化」をするものであり、行ってきたことを検証し、発展させたり、改善したり、または体系づけたり、組み替えたりという、いわば整理して明確にする作業として、さらには、私たち指導する者にとって、自分たちが行ってきたことを振り返る絶好の機会として捉えるべきなのではないかと思います。

さて、幼・保の教育要領・保育指針の「表現」から、小・中の図工・美術、そして高校美術の指導要領まで眺めると、そこに共通する理念は「創造性」「創造する力」です。今こそ、私たちが培ってきた研究が授業に生かされる時であり、子どもたちの個性に合わせた確かな支援・指導によって、創造性を豊かにする造形教育をさらに深めていかななくてはなりません。

北海道造形教育連盟が掲げる研究主題「“わたし”を創る～今を生きる、共に生きる造形教育～」は「子どもが自ら自己選択し自己決定をしていく、主体的な造形活動を通して新たな見方・感じ方を獲得し、自己更新していく」ことを目指す研究であり、これは「創造性」「創造する力」を豊かにするものと考えます。豊かに高められた「創造性」「創造する力」は「“わたし”の更新」を促すだけでなく、新しい時代に必要な資質・能力の一つ「学びに向かう力・人間性」を涵養し、やがて「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という生き方にもつながっていくのではないのでしょうか。

研究テーマ『わたし』を映す」の下、「自分なりの意味や価値をつくりだし、主体的に表す喜びを味わう子」の育成を目指す今大会では、14本の授業と11の分科会が行われます。ご参会の皆様には、北海道立旭川美術館での公開鑑賞会や造形まつり等と併せて、子どもたちが「造形的な見方・考え方」を働かせながら、創造性豊かに「わたし」を映していく様子をご覧いただき、大会の成果をこれからの各地の取組や、表現、図工、美術の実践に生かしていただくことを願い、ご挨拶といたします。

## 道北ブロック大会の開催にあたって

第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会

実行委員長 吉 中 博 道

この度、第69回全道造形教育研究大会を「道北ブロック」としてお迎えできることを大変うれしく思います。この広い北海道を見渡すと、学校数の減少に伴い先生たちが学ぶ場も限られ、造形教育について学ぼうにも志を同じくする仲間が集うことさえ難しくなりつつあります。

そのような中、第64回の上川造形教育連盟・旭川市教育研究協議研究会図工美術部に加え、留萌地方美術教育研究会、そして、この4月に発足した宗谷造形教育研究会と共にこの第69回大会を開催できることは、より良い造形活動を全道で実現するために、大きな意義があると考えます。ご参集いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

最近、教職を目指す大学生の前で話す機会を頂き、その時に「図画工作の思い出」を書いてもらいました。「思ったことが自由に表現できて楽しい時間だった。」「授業を通じて絵を描くことが好きになった」などが見られた反面、「上手な子はいつも褒められるが、自分は褒めてもらえなかった。」「思ったような作品が作れず、つらい時間だった」「もっとこうしなさいと指示され、思ったものと違う作品になった」等の思い出も少なからずありました。「生きる力」の育成を目指した学習指導要領の下で育った学生の実感です。一部では旧態依然とした図画工作の授業が行われていたと考えざるを得ません。そして、図工・美術における「主体的・対話的で深い学び」への道のりは、まず「教師自身が変わること」から始まるとの思いを新たにしました。

今大会のテーマは、『「わたし」を映す』です。子どもたちの「主体的に感じ取り、造形活動に取り組む姿」「自分の意志で自由に表現を考えて試している姿」「内面と向き合い新たな価値を創造する姿」を求めたものです。今大会におけるそれぞれの実践が、テーマに掲げた子ども像に迫るものであったか、大いに議論していただきたいと期待しております。

結びになりますが、本大会の開催にあたり、北海道教育委員会、旭川市教育委員会をはじめとする各関係諸機関の深いご理解と多くのご支援をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。また、北海道造形教育連盟の役員並びに会員の皆様の暖かいご支援にも感謝申し上げます。実行委員会を代表してのご挨拶といたします。



## 第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会に寄せて



北海道教育庁上川教育局長 河野 秀平

大雪山の雄大な自然を望む、ここ旭川市において、第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会が、全道各地から多数の先生方をお迎えし、盛大に開催されますことを心からお祝いを申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、長年にわたり、全道各地において研究大会を開催し、授業公開や研究協議を通して優れた実践の交流を図るとともに、組織的・計画的に実践研究を積み重ねられるなど、本道における美術教育の充実・発展に多大な貢献を果たしてこられたことに、深く敬意を表します。

さて、情報技術の飛躍的な進化により、経済や文化など社会のあらゆる分野でのつながりが国境や地域を越えて緊密さを増してきており、こうしたグローバル化が進展する社会の中では、多様な主体が速いスピードで影響し合い、先を見通すことが難しくなっております。

しかし、こうした時代にあつてこそ、子どもたちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を人間ならではの感性を働かせて豊かなものにしていくことが大切と言われております。

とりわけ、図画工作科・美術科においては、表現及び鑑賞の活動を通して、子ども一人一人に、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を目指すとともに、その育成に当たっては、子どもが「造形的な見方・考え方」を働かせて、学習活動に取り組めるようにすることが極めて重要です。

そのため、各学校においては、つくり、つくりかえ、つくるという学習過程を重視し、子どもが「造形的な見方・考え方」を働かせて、材料や場所、空間などの特徴から発想したり、表したいことを見つけて、それに必要な材料を選んで表現したりする活動や、互いの作品を見合いながら考えたことを伝え合ったり、感じたことや思ったことを話したりする言語活動を指導計画に適切に位置付けるなど、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を一層充実する必要があります。

このような中、本研究大会が「“わたし”を創る～今を生きる、ともに生きる造形教育」を研究テーマに掲げ、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業公開や目標設定と評価方法についての提案など、具体的な子どもの姿や手立てを通して、幼稚園、小・中学校、高等学校での公開授業や研究協議を行い、造形教育における今日的な課題の解決に向けて研究を深められますことは、大変意義深く、多くの成果が得られるものと期待しているところであります。

御参会の皆様には、本会で示された先進的な取組を、各学校における日常の実践に活用して造形教育の一層の充実を図られますことを御期待申し上げます。

結びに、貴研究連盟のますますの御発展と、本研究大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様方の御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

## 第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会を祝して



旭川市教育委員会教育長 黒 蕨 真 一

雄大な大雪山連邦を仰ぎ、清流石狩川をはじめとする多くの河川が市内を流れ、四季が織りなす美しい自然に囲まれた街、ここ旭川市において、第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会が盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに、全道各地から御参加の皆様を心から歓迎いたします。

本市における本研究大会は、昭和28年の第3回大会をはじめに、今回で9回目を数えます。長年にわたり、本道の造形教育の充実、発展に大きく貢献されてこられた北海道造形教育連盟の実践研究の成果が、全道に向け、ここ旭川から発信されることは、大きな喜びでございます。

さて、今の子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代を迎えると言われております。

このように生活が質的に変化する社会にあっても、子どもたちが人間らしさを深めながら生きていくことができるよう、学校教育においては、感性や想像力を働かせながら考えたり、判断したりするなどの資質・能力を育成し、豊かな情操を培うことが求められております。

とりわけ、図画工作・美術教育においては、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色、さらには美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することが重要であり、各学校では、児童生徒一人一人の思いや願いを大切にしながら、自らつくり出す喜びや表現する楽しさを味わう創造的な学習活動の充実を図ることが必要です。

このような折、本大会が『わたし』を映す」を研究テーマに掲げ、幼稚園から小・中・高等学校まで、幅広く公開授業を実施し、研究協議及び分科会を通して研究を深められますことは誠に時宜を得たものであり、教育委員会といたしましても、その成果に大きな期待を寄せているところでございます。

結びになりますが、本大会の開催に当たり御尽力いただきました関係者の皆様から感謝申し上げますとともに、北海道造形教育連盟のますますの御発展と御参会の皆様への御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



# 【大会日程】

受付	授業①	授業②	開 会 式	造形まつり in 全道造形		分科会	移動	レセプション
				昼食				
				移動	授業No13 旭川美術 館公開鑑賞会			

9:00 9:30 10:30 11:30 12:00 12:45 13:45 14:00 15:00 16:00 18:30

## 授業①(9:30~)

授業No	学年	題 材 名	担 当	所 属 名	関連分科会
1①	幼稚園	おしゃれな黒ネコ(描画)	長濱 萌	認定こども園百華幼稚園	A
2①	幼稚園	わくわくトンネル(素材遊び)	阿部 清香	旭川大学附属幼稚園	A
3	小3	大すきなものがたり(絵に表す)	大山みのり	上川町立上川小学校	B
4	小6	ひらいてみると(造形遊び)	佐藤 賢一	旭川市立近文第一小学校	C
5	中2	「わたし」を映す生き物(彫刻)	東 加奈絵	比布町立比布中学校	D
6	高1	イメージしよう!抽象表現の鑑賞	河野 昌一	北海道旭川永嶺高校	E
7	中3	彫刻巡回展示出前授業(鑑賞)	杉森藍, 石川和也, 中明千紘	永山中, 忠和小 音威子府村立音威子府小中学校	J

## 授業②(10:30~)

授業No	学年	題 材 名	担 当	所 属 名	関連分科会
1②	幼稚園	つないで つなげて つながれば	新井 美喜	認定こども園百華幼稚園	A
2②	幼稚園	はっばっば こっばっば	佐藤羽由佳	旭川大学附属幼稚園	A
8	小2	ともだちハウス(立体に表す)	盛永 枝里	北海道教育大学附属旭川小学校	F
9	小5,6	版から広がる世界(絵に表す)	阪部あずさ	美瑛町立美馬牛小学校	G
10	中2	CMを鑑賞しよう(鑑賞)	島本 匡洋	旭川市立北門中学校	H
11	中2	心をともしあかり(デザイン)	島本さとみ	士別市立士別中学校	I
2	小6	彫刻巡回展示出前授業(鑑賞)	石川和也, 中明千紘, 杉森藍	忠和小, 音威子府小中学校 永山中	J

## 分科会(14:00~) ※美術館は15:00~

分科会No	ファシリテーター	所 属 名	関連授業
A	大橋 功	岡山大学(教授)	1,2
B	橋本 忠和	北海道教育大学函館校(教授)	3
C	名達 英詔	十文字学園女子大学(教授)	4
D	山崎 正明	北翔大学(教授)	5
E	平向 功一	札幌大谷大学(教授)	6
F	佐々木 幸	北海道教育大学釧路校(教授)	8
G	阿部 宏行	北海道教育大学岩見沢校(教授)	9
H	花輪 大輔	北海道教育大学札幌校(准教授)	10
I	岩永 啓司	北海道教育大学旭川校(准教授)	11
J	泉 大吾	北海道教育委員会(指導主事)	7,12
K	南部 正人	北海道教育大学旭川校(教授)	13

## 開閉会式次第

### 【開会式】

司会 道北ブロック大会副実行委員長 西田 朋代

- |         |                             |                    |
|---------|-----------------------------|--------------------|
| 1 開会の言葉 | 道北ブロック大会副実行委員長              | 南部 正人              |
| 2 挨拶    | 北海道造形教育連盟会長                 | 森長 弘美              |
| 3 祝辞    | 北海道教育庁上川教育局長<br>旭川市教育委員会教育長 | 河野 秀平 様<br>黒藤 真一 様 |
| 4 来賓紹介  | 道北ブロック大会実行委員長               | 吉中 博道              |
| 5 閉会の言葉 | 道北ブロック大会副実行委員長              | 南部 正人              |

### 【閉会式】

司会 道北ブロック大会副実行委員長 西田 朋代

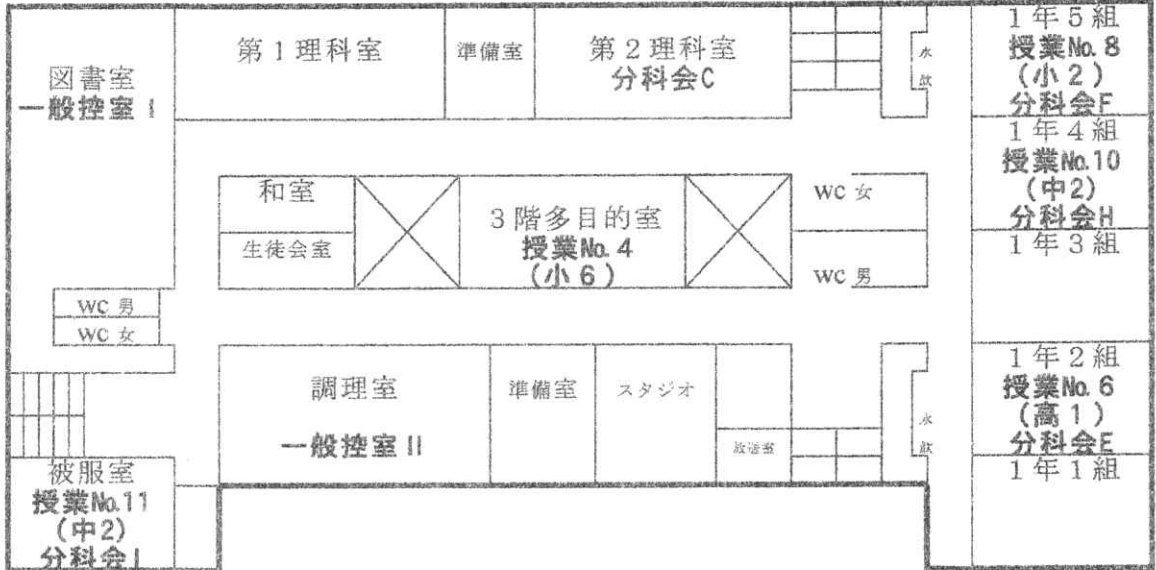
- |             |                               |                |
|-------------|-------------------------------|----------------|
| 1 開会の言葉     | 道北ブロック大会副実行委員長                | 南部 正人          |
| 2 挨拶        | 北海道造形教育連盟委員長<br>道北ブロック大会実行委員長 | 森長 弘美<br>吉中 博道 |
| 3 次期開催地代表挨拶 | 函館・渡島・檜山大会実行委員長               | 谷口 光伸          |
| 4 連盟旗引継     | 道北ブロック→函館・渡島・檜山               |                |
| 5 閉会の言葉     | 道北ブロック大会副運営委員長                | 豊崎 東洋          |



会場図 (旭川市立永山中学校)

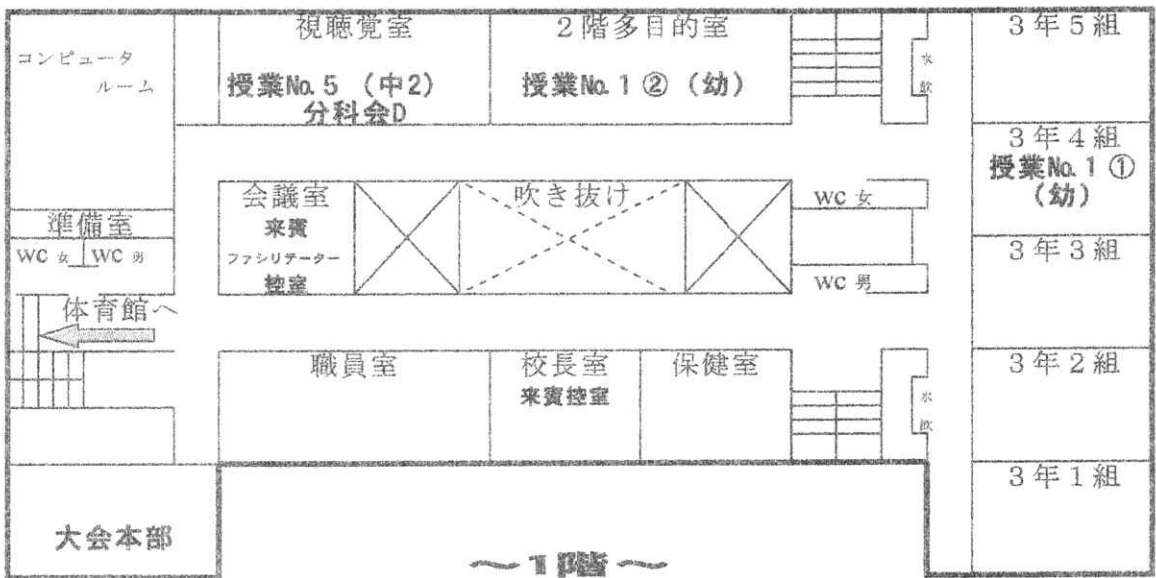
～3階～

公開授業		分科会
授業⑨9:30～10:20		
1	おしゃべりなねこ	A
2	わくわくトンネル	A
3	小3 大きななみかた	B
4	小4 ひらいてみると	C
5	中2 「わたし」を機す生き物	D
6	高1 イメージしよう!	E
	旭川市現の顔	
7	中3 総括説明会出席授業	J
授業⑩10:30～11:20		
8	つないで つなげて	A
	つなげれば	
9	はつばつ 三つばつ	A
10	小2 ともだちハウス	F
11	小4 夢から広がる世界	G
12	中2 CMを鑑賞しよう	H
13	心をとめてあげよう	I
14	小6 総括説明会出席授業	J
15	旭川美術協会公開授業	
	(旭川市立永山中学校にて授業)	

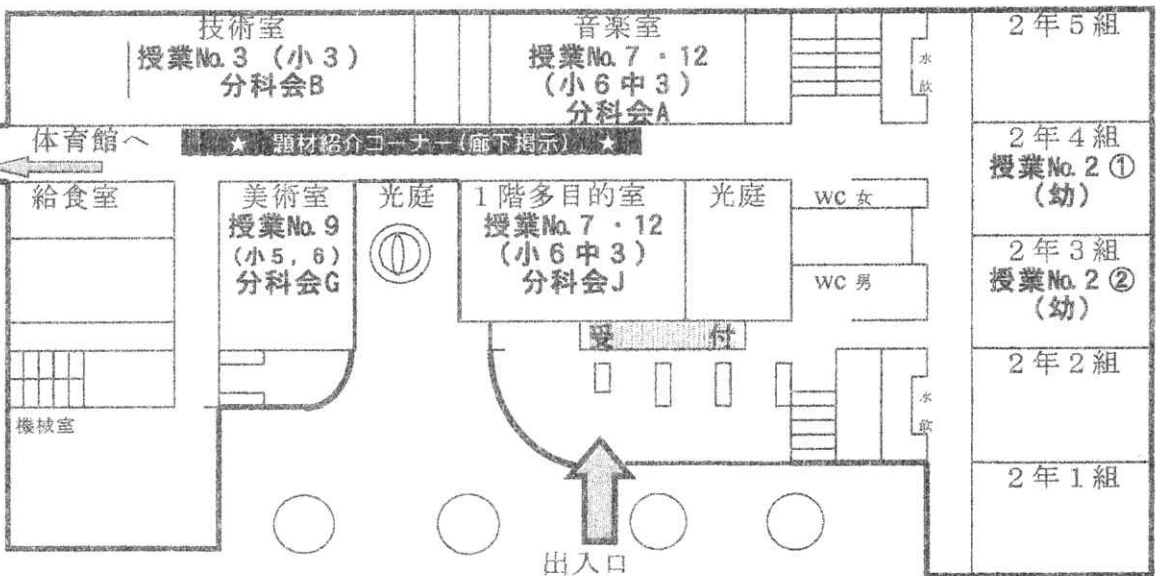
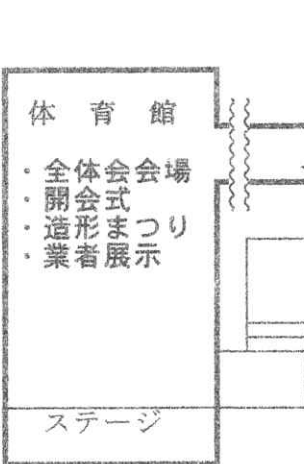


～2階～

分科会	
1	① 幼稚園
A	2 ② 幼稚園
B	3 小学校(中)
C	4 小学校(高)
D	5 中学校
E	6 高校
J	7 中学校
F	8 小学校(低)
G	9 小学校(高)
H	10 中学校
I	11 中学校
J	12 小学校(高)
	13 美部連



～1階～



**業者ブース**  
 クラフテリオ, 彩光社, サクラ, 新日本造形, 鈴木楽器  
 日本文教出版, 美術出版, ペンテル, 光村図書, 山城教材  
 (50音順 敬称略)

**飲料販売**

搬入口

→ 1階校舎

駐  
車  
場  
(上  
川  
支  
庁  
側)

留萌地方美術教育研究会 『ドリフターズ ～海辺でうまれた ものたち～』	旭川市教育研究会 図工美術部 『開いて広がる世界～ 板締め絞り染め』		
十勝造形サークル 『ゼンタングル体験』	上川造形教育連盟 『銅でどうでしょう?』		
空知美術教育研究会 『子どもの作品を 語る屋台』	北海道飛行機を飛ばす会 『飛ばして遊ぼう』		
常広市教育研究会 図工美術部会 『ふしぎないきもの』	石狩造形教育連盟 『何が出るかな? 何ができるかな?』		
根室造形教育連盟	釧路造形教育研究会 『ジェスモナイトを使って』		
宗谷造形教育研究会 『立体凧を作ろう』	旭川市彫刻美術館 彫刻巡回展示 出前授業を体験し よう	おといねっぶ 美術工芸高等学校 学校紹介ブース	札幌市 造形教育連盟 『"題材"の入口 ～出口』

お弁当引換所

体育館ステージ

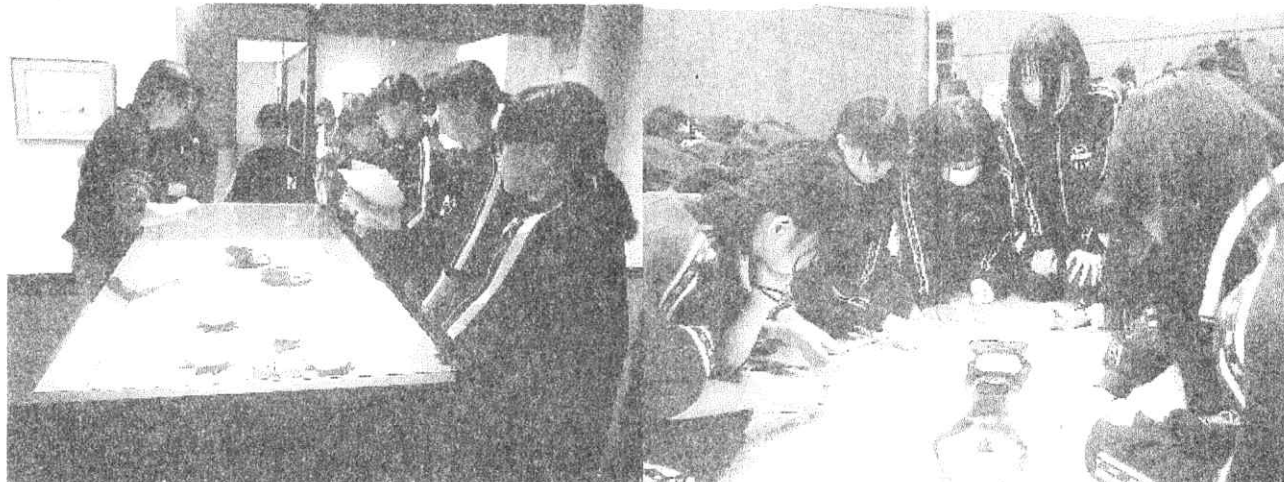
搬入口

開放玄関



## 美部連の昨年度の実績

### 「魯山人の宇宙」展鑑賞会(5月～6月)



今年度は、旭川美術館において「魯山人の宇宙」展の鑑賞会を行いました。魯山人という偉大な作家を中心とした展示で、陶芸あり、書あり、墨絵ありなど多彩な才能に圧倒されながらも、自然体で作品に接していました。ギャラリートークでは、なかなか難しい題材ではありますが、トーカーの先生方の投げかけも非常に巧みで、生徒達から様々な想いをくみ取っていました。大学生が監修しているアクティビティでは、いくつかの作品の写真を基に、それぞれのチームがどんな台詞を言っているのか想像を巡らせ、それに対して他のチームが反応するというものでした。とても和気藹々とした雰囲気の中で終えることができました。また、今年は参加校もさらに増え、25校406名という参加数になりました。皆様のご協力本当にありがとうございました。

#### <参加校> : 計25校(406名)

	B日程 5/27(土)	C日程 5/28(日)	D日程 6/9(土)	E日程 6/16(土)
参加校	忠和中学校	旭川中学校	啓北中学校	旭川第二中学校
	永山中学校	広陵中学校	東明中学校	神居東中学校
	附属中学校	永山中学校	東陽中学校	永山南中学校
	北星中学校	北門中学校	名寄中学校	六合中学校
	中央中学校	明星中学校	東川中学校	士別南中学校
	上富良野中学校	東神楽中学校		富良野西中学校
				富良野東中学校
			愛別中学校	
計	6校 129人	6校 96人	5校 96人	8校 85人
G	鳥丸(忠和)	杉森(永山)	藤山(啓北)	伊藤(旭川)
T	杉森(永山)	黒田(旭川)	原田(東明)	橋本(神居東)
	垣副(北星)	山路(広陵)	桑村(東陽)	成田昭(六合)
	庄子(上富良野)	成田慎(明星)	森(東川)	吉成(士別南)
		中井(東神楽)		渡辺(富良野東)

## 「中原悌二郎記念彫刻美術館ワークショップ」(8月8日)



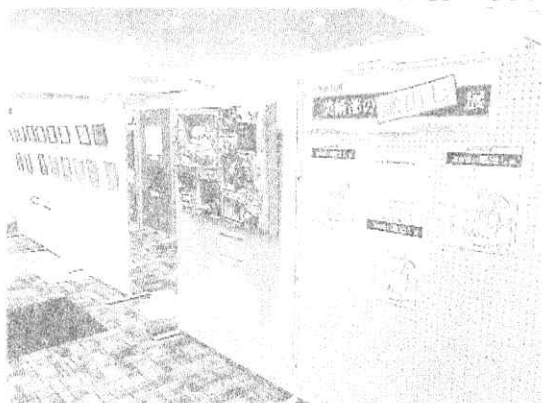
2年ぶりに彫刻美術館によるワークショップを実施しました。今回は、「あなたが大切に思うモノ」と題して、第40回中原悌二郎賞を受賞した青木野枝氏をお招きして行いました。参加した生徒一人一人が、「自分が大切に思うモノ」を持参し、それにまつわる想いや考えなどをまとめ、一人一人青木さんと対話することで、モノの捉え直しをしていくという内容でした。参加者数自体は、多くはありませんでしたが、彫刻美術館による細やかな配慮などもあり、参加した生徒さんにとっても思い出深いワークショップになったのではないかと思います。

＜参加校＞：計3校(28名)

	学校名	参加者数
参加校	東神楽中学校	16名
	明星中学校	9名
	東陽中学校	3名

## 美術部展！「美術部の蔵出し展」(2月16～2月23)：計13校

今年度は、イオン旭川西店3Fにおいて「美術部の蔵出し展」と題して、展覧会を行いました。日頃から取り組んでいる美術部としての活動の成果を展覧会という形で発表してもらいました。パネル数も多くたくさんの作品が展示されました。期間中も多くの方に見ていただけたようで、話題に挙がっていました。



学校名
愛宕中学校
神居中学校
啓北中学校
広陵中学校
忠和中学校
東明中学校
北星中学校
北門中学校
明星中学校
上富良野町立上富良野中学校
士別市立士別南中学校
東神楽町立東神楽中学校
東川町立東川中学校

## 「160万人が見てくれる看板をつくろう」動物園ワークショップ(3月)

今年度、試行的に旭山動物園と地域連携アートプロジェクトとのコラボレーション企画として実施いたしました。あくまでも試行的な活動であったので、美部連全体の活動とはなりませんでしたが、年間160万人の方が、来場される旭山動物園の看板を制作し、実際に飾ってみるという活動をしました。次年度(今年)は、全体にもアナウンスできるよう働きかけていきたいと思っております。





# レセプションの御案内



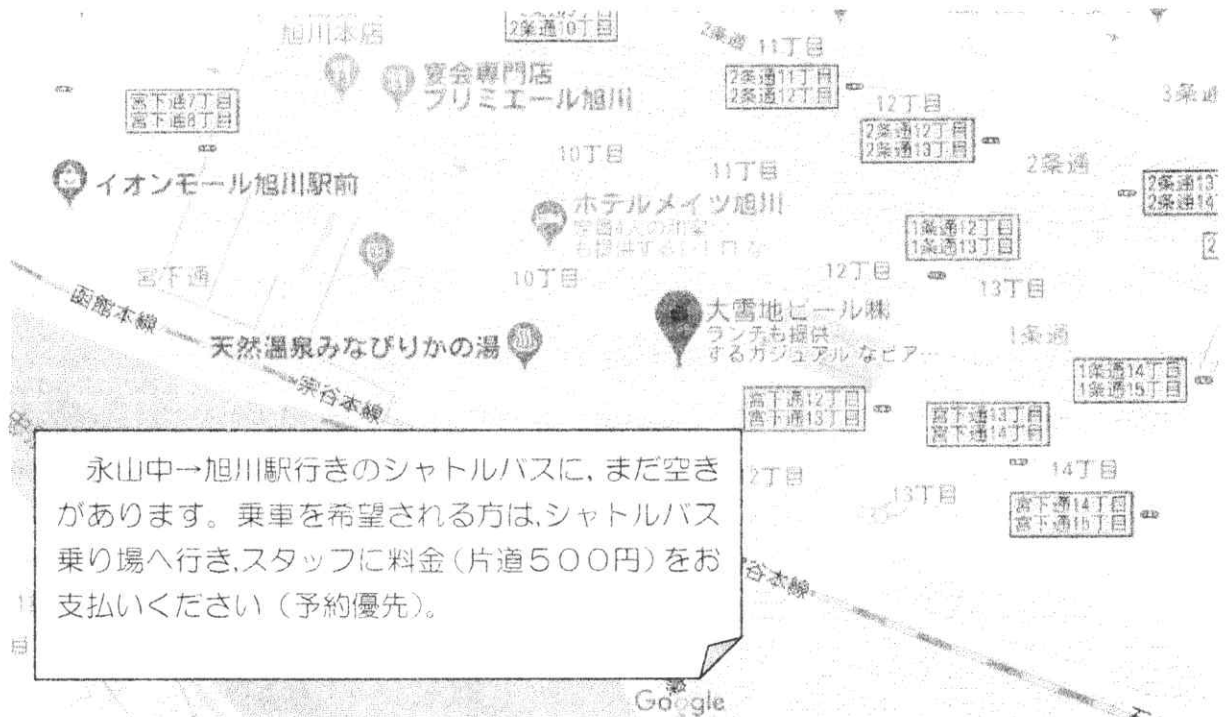
大雪地ビール館において、レセプションを行います。  
造形教育について語り合いながら、グラスを傾けてみませんか？

場所:大雪地ビール館(旭川市宮下通 11 丁目 1604-1) 旭川駅から徒歩5分

時間:18:30~

会費:4,500円 飛び入り大歓迎!!

🚗 駐車場はありませんので、周囲の民間の駐車場をご利用ください。



授業者やファシリテーターと  
もっと話したい!今夜何を食べる  
のか、まだ決めていない!全道  
の仲間と語り合いたい!飛び入  
り参加も大歓迎!!

さあ!今夜は、大雪地ビール館  
へ集合🍻



# 研究概要



「たこと わたしの 海の旅」 旭川市立東五条小学校 3年 松山 灯子

(平成30年度旭川市児童生徒作品展 旭川市長賞)



## 1 研究主題設定の背景

急速に進む超少子高齢化と人口減少社会を迎えた現在、社会・経済的、文化活動が地球規模で拡大し様々な影響を及ぼすグローバル化の大波にも晒されている。さらに、23年3月11日の東日本大震災以降、未曾有の自然災害や原発事故、エネルギー資源の有限化などの社会状況の変化の中で、未来を担う子どもたちにはこれまで経験したことない新たな課題を見出し、それらの最善解を生み出す力が求められるだろう。今を生きる子どもたちが、これらの時代に求められる「生きる力」を確実に身に付け、一人一人の可能性を最大限に伸ばすよう、育成すべき「資質・能力」及びそのための「教育目標・内容」、「評価」の在り方を明確にする必要が学校教育に求められている。

造形教育を担う私たちは、知識基盤社会と言われ学力の向上が教育界の命題となっている今だからこそ、表現・図画工作・美術・工芸といった造形教育が今、教室で生き、未来に社会で生きる子どもたちに培うことができる「資質・能力」を明確に意識し、一つ一つの授業の中で「目標と評価」を位置付けることを通して、教科としての造形教育の存在意義を主張していくことが、子どもたちのために必要であると考えます。

では、知識基盤社会の中で造形教育が育むことができる「資質・能力」とはどんなことであろうか。教育学者である上智大学の奈良正裕氏は著書「教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり」(2015年)の中で次のように述べている。

図画工作の「材料を基に造形遊びをする」では、あらかじめの意図や計画ではなく、材料との間にその都度生じるたぶん偶発的な出会いと、その子どもによる関連自在な必然化や絶えざる繰り返しのより、美的な創造の営みが展開されていく。そこでは、本来異なるカテゴリーに属するもの同士を独自の視点や理路により大胆に「つなげる」「見立てる」「たとえる」といった思考の様式、かつてレヴィ＝ストロースが「野生の思考」と呼んだものが豊かに作動している。要素技術の思いもかけない新領域への適用や限られたリソースを駆使して高い付加価値を有する商品開発をする場合など、知識基盤社会での新たな知や価値の創造において、この「野生の思考」が豊かに発揮され、目覚ましい成果を挙げていることは疑いの余地がない。それは産業社会を支えてきた近代合理主義に基づく一方的で等速直線運動的な発想や構想の様式とはすっかり異なるものであり、従来の学校教育がおよそ明晰な意図をもってしっかりと育んでこなかった類いの思考と言えよう。

フランスの文化人類学者クロード・レヴィ＝ストロースは、その著書「野生の思考」(みすず書房 1976年)の中で、素材や技術の思いもかけない新領域への適用や限られたリソースを駆使して高い付加価値を有するものをつくり出すことを「ブリコラージュ」と呼び、近代以降の「エンジニアリング」の思考＝「栽培された思考」と対比させ、人類が古くからもっている知であり、近代社会にも適用されている普遍的な知の在り方だと述べている。

この「資質・能力」の育成は、何も小学校の造形遊びでのみ可能なのではないと考える。幼児教育のごっこ遊びであったり、平面や立体と言った表現様式を組み合わせた題材であったり、平面表現であっても様々な材料を組み合わせた題材であったり、中学校や高等学校における具象的な表現と抽象的な表現を組み合わせ、心象や内面を表現する題材においても育成できると考える。近年の教科書題材に領域の境目が無くなり多様な表現が多く扱われているのも、このようなコンピテンシー育成に基づいていると推察される。

このように、本来造形表現活動には「ブリコラージュ」の思考的要素が内在されており、私たち造形教育に携わるものは、「どのように造形的内容を教えるか」といった「コンテンツ・ベース」的な教育観から、「どのような資質・能力を育てるか」という「コンピテンシー・ベース」育成へ教育観のシフトが求められているのである。しかしこれは何も新しいことではない。アメリカの教育学者ヴィクター＝ローエンフェルド著「美術による人間形成」(1947年)で述べた、「美術を教える」のではなく「美術を通して教える」という教育観と何ら変わることでなく、造形教育ではどんな「資質・能力」を育成するのかをより意識していこうというものである。また、同著から造形教育と子どもの発達の関係の重要性は周知の通りであり、子どもの「未来」を見据え「今」どのような学びが必要なのかを時間軸で捉え、「資質・能力」の育成という観点で再考していく必要がある。

加えて、造形教育が教科という学校教育としての集団での学びであることを踏まえ、一人一人の「資質・能力」の育成を「協働的な学び」の中で効果的に高めていけることも実践していけなくては、私たち自身が造形教育の存在価値を自覚し自信をもち子どもたちに授業を提供し、他に価値を主張することはできないと考える。

これまでも、共同制作という学習課題や造形遊びや〇〇ワールドづくりなどで自然に生まれた接点から偶発的に共同制作が始まる「協働的な学び」は存在した。しかし、そのようなある特定の学習内容ではなく日常の造形活動中で、子どもの必然が伴った「協働的な学び」を成立させていくにはどのような手立てが必要なのだろうか。

ロシアの心理学者レフ・セメニョビッチ＝ヴィゴツキーは、著書「思考と言語」(新読書社 2001年)の中で、有名な「発達の最近接領域」ということを提唱している。ヴィゴツキーは子どもの発達について二つ

知識基盤  
社会の中の  
造形教育

造形活動に  
内在する  
知識基盤社会を  
生きる「知」

コンテンツ  
・ベースから  
コンピテンシー  
・ベース育成へ

造形教育  
における  
協働的な学び

の水準を分類している。ひとつは、既習などを生かし与えられた問題や技能を自主的に解決することができる領域である。今ひとつは、一つの領域に近接しながらも既習などでは自主的には解決できない問題や技能であっても、他者と交わることにより解決に成功する領域で、これを「発達の最近接領域」と呼んでいる。子どもが仲間と協力し合うときのみ、その学びは多様な内的発達過程を覚醒し、いったんこのような過程が内化したならば、それらの過程は子どもの自立的な発達の成果の一部となる。その自立心がまた可能性を生み出し、その可能性が他者との交流を生み出し内化し、「自立のサイクル」を生み出すと提唱している。

**自立と共生の  
新たな関係性**

前次の研究「自立と共生の造形教育」では、一人一人の学びが「自立」していることで「共生」の学びが成立すると仮説を立てていた。しかし、「共生の学び」＝「協働的な学び」が子ども一人一人の「自立」を促すという、「自立した学び」と「協働的な学び」が双方向に相乗的に効果を有するという新たな研究の方向性が見えてきたのである。

以上のような新たな教育課題とこれまでの全道造形教育研究大会の研究成果から、研究主題を以下のように設定した。

**“わたし”を創る**  
～今を生きる、共に生きる造形教育～

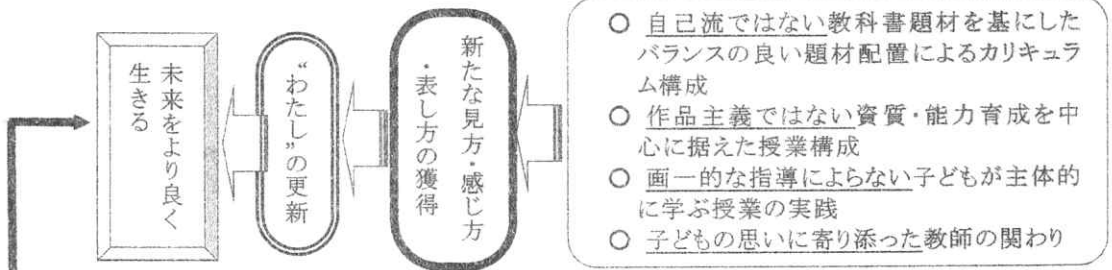
この研究主題は「学習指導要領の改訂を見据え」チーム北海道の仲間と意見交流を繰り返した中から生まれている。また、前回同様、副主題は設定しない。各地区サークルの研究が、本研究主題を具現化するそれにあたるものと考えているからである。

**2 研究内容 I**

**“今”“わたし”が生きる造形活動の在り方とは**

子ども自らが自己選択し自己決定していく、主体的な造形活動を通して新たな見方・感じ方・表し方を獲得し、自己を更新していくというこれまでの研究の内容は踏襲しつつも、造形教育で育まれる固有の資質・能力だけでなく、汎用性のある未来に生きて働く資質・能力の育成をめざしていく。

“今”意味ある  
造形教育を通して  
“未来”を創る

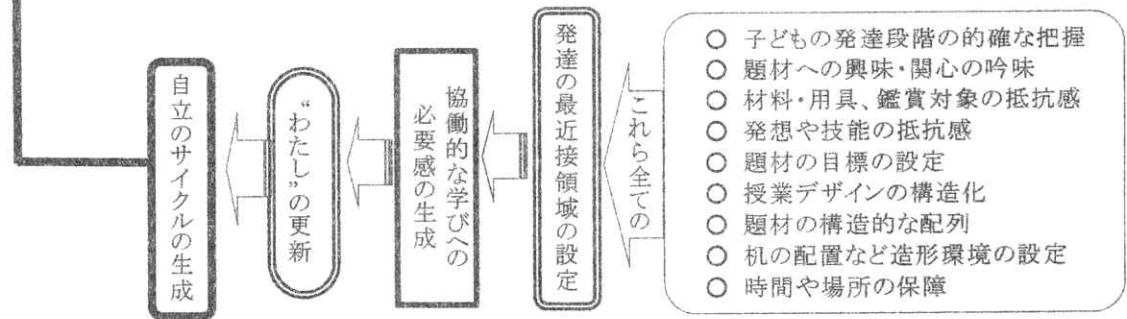


**3 研究内容 II**

**“わたし”が高まる“共に生きる”造形活動の在り方とは**

人の世界観の最小単位が自分であり、成長と共に世界が広がっていく。そして、発達の最近接領域における協力者も成長に伴い親や先生から仲間へ置き換わってくることを考えると、協働的な学びの在り方には発達ということが大きく関係している。また、指導者が子どもの思いを可視化したいがために交流を促したり、一人の子の発想や技能のよさを他に広めたいがために交流を促すなど、指導者の必要感が子どもの必要感と一致していないと、単に子どもの造形活動の時間や意欲を奪う結果になりかねない。子どもの必要感から生まれる協働的な学びが成立していないと、お互いに自立を促す学びにはならないと考える。そのためには、以下が達成されている必要がある。

発達と必要感に  
裏打ちされた  
協働的学び





## 第69回全道造形教育研究大会 道北ブロック大会

# 研究テーマ 「わたし」を映す

道北ブロック研究部長 桑村 美由紀

### 研究提案～深める研究・広める研究

2019年の「第69回全道造形教育研究大会（道北ブロック大会）」は、旭川市を中核としながら、上川、留萌、宗谷と連携し、道北ブロックとして開催します。

2017年3月31日付けで新学習指導要領が公示され、「『主体的・対話的で深い学び』の視点を通 授業改善」をキーワードとして、資質・能力を身に付けさせる学び方を重視することが示されました。――工作科、美術科においては、これまでもこのような視点を重視して、実践と授業改善を進めてきたところ です。

今回の学習指導要領改訂では、「造形的な見方・考え方を働かせて」という部分を意識して指導することとされています。新学習指導要領には、「造形的な見方・考え方」の解説として、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと（小学校図画工作）」「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと（中学校美術）」と示されています。

「見方・考え方」とは、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」とされており、それ自体は、資質・能力に含まれるものではないが、「資質・能力」を育成していく上で活用すべき視点・考え方であるとされています。また、資質・能力と見方・考え方は連動する関係にあるとされています。

以上のようなことを踏まえながら、教科の特性を生かした学びを創造するためには、子どもたちの具体的な学びの姿をイメージすること、小学校・中学校の連続性を意識すること、題材や指導、評価を工夫するが重要だと考えています。

また、法に定められた「生活を明るく豊かにする」ことを念頭に、学習活動において培った資質・能力を生活や社会に生かす視点や、学校における学びが生涯を通じて継続・発展していく視点も大切にしてい く必要があると考えています。そのためには、造形にかかわる諸機関と連携を密にし、多様な学びを広げる取組をすすめることも求められます。

旭川市教育研究会図工・美術部では、2011年度より上川造形教育研究会との連携による研究を推進するとともに、義務教育9年間を見通した小中学校の連携を基盤とする研究組織・内容の改善を図ってきました。

本研究大会では、日常の授業改善を考える「深める」研究と、指導者の支援や造形教育に関わる他機関と連携する「広める」研究をバランスよく実践する研究推進のコンセプトを提案します。

# 研究テーマ

## 「わたし」を映す

### 研究テーマについて

新学習指導要領では、3つの視点（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）で、目標が見直されました。

「A 表現」は（1）発想・構想に関する資質・能力と（2）技能に関する2つの観点に分かれ、小学校では、「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」の指導事項の違いを明確に示し、中学校では、すべての事項に「主題を生み出すこと」を位置付け、生徒自らが主体的に表すことに重点を置いています。

また、「B 鑑賞」では、小学校第5・6学年より「生活の中の造形」を、中学校では新たにこの項目に「美術の働きや美術文化」をそれぞれ明記し、美術が生活の中で密接に関わっていることや生活を美しく豊かにすることについて示しています。

特に今回の改訂では、共通事項を「造形的な視点を豊かにするために必要な『知識』」として整理し、今まで不明瞭だった造形的な知識について言及しています。

こうした改訂の趣旨を踏まえ、本研究では、次のような取組をして、創造的に表すための研究をすすめてきました。

- ・資質・能力の相互の関連を明らかにして指導に当たること
- ・造形的な見方・考え方を意識して指導に当たること
- ・「知りたい！表したい！」という思いを引き出すこと
- ・子どもたちが自分で感じたことをもとに構想を広げたりすること
- ・主体的・対話的な学習活動を重視すること
- ・生活や社会の中の造形や美術の働きや美術文化に関する学習活動を充実させること

今回の大会では、全道造形連盟の研究主題「“わたし”を創る～今を生きる、共に生きる造形教育」を目指す上で、「造形的な見方・考え方」のエッセンス「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと（小学校）」「美術科の特質に応じた物事をとらえる視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと（中学校）」を加え、「『わたし』を映す」を研究テーマに設定しました。

「わたし」とは、楽しい気持ちや悲しい気持ちなどの感情を持った自分や悩んだり改善したりして行動した経験のある自分など過去・現在の自分、またこんな風にしてみたいという思いから生まれる未来の自分など、あらゆる角度から捉えた多面的な自分を指します。「映す」とは、造形活動で起こる全ての行為やつくられる造形物は、子どもの心情、感性や経験など、ありのままの姿を如実に映しているものであると考えました。そして、そうした「わたし」が言葉、形、色などを用いて、「主体的に感じ取り造形活動に取り組む姿」「自分の意思で自由に表現を考えて試している姿」「内面と向き合い新たな価値を創造する姿」として子どもたちの姿に表れることをイメージしています。

私たち教師が、子どもの一連の造形行為から楽しさや面白さを感じ取っている姿や、つくる過程で自分なりの意味や価値を見付けたり創り出したりする姿を見出し、それを子どもに返すことで、自分を見つめ直し、造形活動に自分なりの意味や価値を見つけたものを、それを他の造形活動や日常生活に生かそうとする子どもの育成を目指します。

# 深める研究

深める研究では、日常の授業改善を中心に、目指す子ども像を実現するために題材、指導、評価の3つの観点から研究を進めます。学級や個々の子どもの実態を的確に捉えて題材を設定し、創造的に表すことができるよう指導方法を工夫し、指導による子どもの成長を見取る手立てや振り返りを大切にしたい評価を工夫します。

## 研究テーマ

「わたし」を映す

## 研究主題

自己を見つめ、創造的に表す造形活動

## 目指す子ども像

自分なりの意味や価値をつくりだし、主体的に表す喜びを味わう子

## 研究の具体

### 研究内容1 題材研究

主体的に表したくなる題材の工夫

### 研究内容2 指導研究

思いや考えを基に豊かに意味や価値を創造する学習指導の工夫

### 研究内容3 評価研究

子どもたちの成長を適切に見取る手立て、振り返り活動の工夫

## 研究内容1 題材研究：主体的に表したくなる題材の工夫

- 子どもたちが造形活動を通して、自分なりの思いや考えを表すことの喜びを実感するためには、造形活動に取り組むことで新たな発見をしたり、感動したりするなど感情を揺さぶる題材との出会いが必要です。技法や表現の仕方を画一的に指導するのではなく、子どもたち自身に学ぶことの意義や価値を見つけたり深めたりさせることが主体的に表すための意欲や態度を培う上で重要だと考えました。
- その1つとして、「試しの活動」に取り組んできました。「試しの活動」とは、子どもが主体的に造形活動に取り組むための手立てとして、素材や道具、空間や表現方法などを、学習過程の中で試したり練習したり、積極的に試行錯誤しながら気づきや見通し、価値付けをするための造形体験活動のことで、「試しの活動」に基づいて行われた授業によって、同じ題材でも色々な表現方法があることの発見や表したことを互いに認め合うことで新たな気づきが生まれる、など造形活動に取り組む意欲の向上が見られました。具体的な題材例を挙げて、その効果について説明します。

### ○「試しの活動」例

- 題材名「ギコギコクリエーター」（日本文教出版図画工作3・4年生下「ギコギコクリエーター」）  
この題材の「感じる」「想う」過程で、児童は広いスペースで様々な大きさや厚みの木材種類ののこぎりを自由に試しました。1時間かけて自由に道具と材料を試した児童は材料と道具の両方の性質について「これ、柔らかすぎて切りにくい」「両刃だと曲線が切りにくい」「この木は堅いな」「切りにくいからちょっと押さえてて」など、自ら発見したり、児童同士のかかわりの中で新たに気づいたりして、実感を伴って理解することができました。
- 題材名「マイキャラクター」（光村図書美術2・3「暮らしの中のキャラクター」「想像の生物をつくる」）  
この題材の「感じる」「想う」過程で、生徒は材料の樹脂粘土を試しました。生徒はその着色や発色の様子や質感、加工のしやすさや可塑性による表現可能な形の限界などを自分の感触と、友達の活動の観察から新たな発見をして、材料の性質や可能性を実感することができました。

### 3 「主体性」を以下のように定義する

主体性とは、 (1)自ら進んで活動する様子

(2) 実感を伴う表現及び鑑賞

- \* 実感を伴わない、「写真をトレースする表現」や「描き順を示した〇〇方：...」などは自らの感性を働かせていない活動のため、図画工作科、美術科が目指す造形活動として適切とはいえません。

新学習指導要領の言葉を使うと

2 内容

A 表現

(1)

ア 感じ取ったことや考えたことなどをもとに、

←この部分の言い換えが、『実感を伴う』

↑

「試しの活動」もこの部分に関連

「意識して五感を働かせること」

「自らの知識や経験とすり合わせたり、比較したりすること」

つまり、一度、自らの身体を通して『実感を伴う』ことができる。



**研究内容2** 指導研究：思いや考えを基に豊かに意味や価値を創造する学習指導の工夫

1 本研究では、①感じる②想う③生み出す④振り返るという造形活動から、新学習指導要領の観点に照らし合わせて「資質・能力」を伸ばすための視点を明確にしました。これらの造形活動は、授業や題材間、日常生活などの中で何度も行き来を繰り返すことで、「資質・能力」を相互に働かせながら、育成させることにつながると考えました。

(1) 造形活動と「主な資質・能力」の関わり

<p>学びに向かう 力・人間性</p>	<p>① 感じる（学びに向かう）を通して、</p>	<p>美術を愛好する心情、感性、心豊かな生活を創造していく態度、豊かな情操などを培う。</p>
<p>思考力・判断力・表現力等</p>	<p>② 想う（発想・構想を深める）を通して、</p>	<p>豊かに発想し構想を練る。</p>
<p>知識・技能の習得</p>	<p>③ 生み出す（新たな価値を創造する）を通して、</p>	<p>造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し創造的に表す。</p>
	<p>④ 振り返る（鑑賞する）を通して、</p>	<p>a 知識・技能の確認（何がわかったか、できるようになったかを自己点検）をする。 b 美術や美術文化に対する見方・感じ方を深めたりする。</p>

また、新学習指導要領改訂の方向性として示された身に付けさせるべき資質・能力である三つの柱と本研究の柱となる「試しの活動」の関連を以下の構造図のように表すことができると考えました。試しの活動を取り入れることで、それぞれの活動をつなぎ、相互に関連しながら「資質・能力」を伸ばしていくことになると捉えました。



(2) 造形活動のプロセスと関わりの高い「主な資質・能力」

造形活動のプロセス	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
感じる	観る力	着想力	追求力
想う	構想力	批判的思考力	主題設定力
生み出す	思考と身体の柔軟性	適応力	課題解決能力
振り返る	受容力	メタ認知能力	コミュニケーション能力

※造形的なプロセスは何度も行き来するもので、主な資質・能力も相互に関連すると捉えています。

○感じる

【観る力】： 現実を正確に観る、外見だけでなくその内にある美、真理、心情などの価値（本質）をみてとる能力

【着想力】： 心に浮かんだ「想い（考え）」が、何らかの形（ゴール）に「着く（たどり着く）」能力

【追求力】： 目的とするものを粘り強く追い求める能力

○想う

【構想力】： 自ら課題解決の方法を考え、組み立てていく能力

【批判的思考力】： 根拠に基づいて考え、判断する能力

【主題設定力】： 自ら課題を設定していく能力

○生み出す

【思考と身体の柔軟性】： 知識を深めたり広げたり、技能の精度を高めるための資質

【適応力】： 表現しながら、より汎用性の高い認知能力を高めていく資質

【課題解決能力】： 自ら課題を解決する（全て自力というわけではなく、わからないことやできないことを協力してもらうことで解決に向かうなど、結果として課題解決する）能力

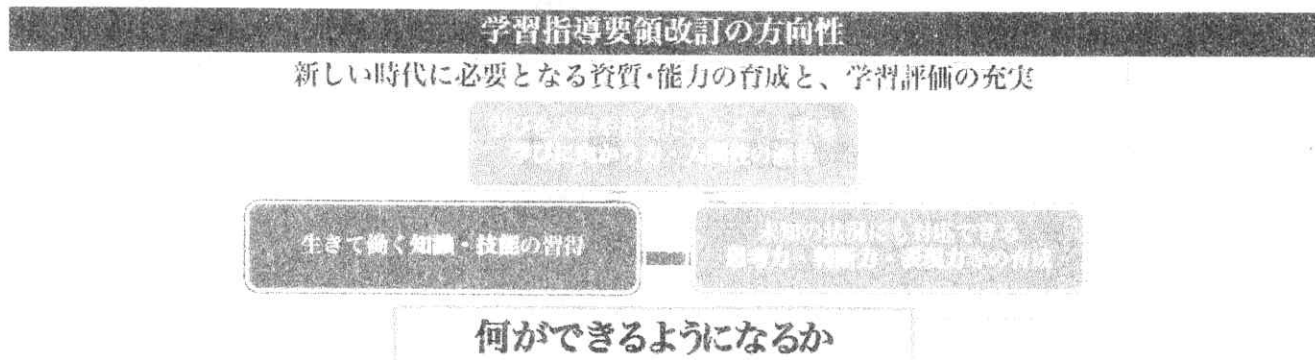
○振り返る

【受容力】： 作品から多様な造形的要素を受け取る力

【メタ認知能力】： 自分なりの美意識を形成したり、深めたりする能力

【コミュニケーション力】： 協働する中で、お互いを認め高めあう力

下の図に示すように、新学習指導要領改訂の方向性は、身に付けさせるべき資質・能力を三つの柱に示しています。この三つの柱、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性の涵養」は、それぞれ身につくまでに要する時間や期間が違います。ですから、1 単位時間で、題材や単元を通した中で、学期や年間でというように、それぞれの造形活動の中で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、それを意識しながら実践してきました。



(3) 具体的な手立て

感じる	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 自分を見つめる, 身の回りの生活に生かそうとする, 関心・意欲を高める。</li><li>・ 「試す活動」によって, 実感を伴って素材や道具の本質に出会う工夫。</li><li>・ 創作に向かう好奇心を揺さぶる題材との出会いの工夫。</li><li>・ 材料, 場所, 時間等の学習環境の工夫。</li><li>・ 地域素材の教材化や人材活用。</li></ul>
想う	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 豊かに発想する, 構想を練る。</li><li>・ 「試しの活動」で, 素材や道具の可能性を実感し, 表現範囲や方法, 表現の方向性など広がりをもたせる場面の設定。</li><li>・ 生活経験や造形の経験, 知識のつながりの設定。</li><li>・ 主題設定の明確化。</li><li>・ 学習プリントの工夫。</li><li>・ 交流活動の設定と工夫。</li><li>・ ICTの活用と工夫。</li></ul>
生み出す	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 造形的な視点を理解し, 創造的に表す。</li><li>・ 「試しの活動」を効果的に振り返らせて表現に生かす工程の工夫。</li><li>・ 制作の見通しのもたせ方の工夫。</li><li>・ 表現方法や技法の選択場面の設定。</li><li>・ 材料や用具の扱い方を覚える場面の設定と工夫。</li></ul>
振り返る	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 自己理解や他者理解し, 自分なりの意味や価値を自覚する。</li><li>・ 「試しの活動」によって理解できたことや感じたこと, 想像したことなどを自覚する場面の設定。</li><li>・ 鑑賞場面, 時間の設定。</li><li>・ 学習プリントの工夫。</li><li>・ 自己評価や他者評価の場面の設定。</li><li>・ 日常生活との関連をもたせる場面の設定。</li></ul>

### 研究内容3 評価研究：子どもの成長を適切に見取る手立て、振り返り活動の工夫

評価は「何が分かったのか、できるようになったのか」「どんな見方・考え方をしたことで、どのように広く、深く分析や感じ取ることができたのか」という教師の見取りと、子どもの自己評価が大切です。教師の評価を子どもに返したり、自己評価を積み重ねたりすることによって、子ども一人一人の自信や自己有用感を高めることができます。平成30年10月の教育課程部会児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ資料「今後の方向性（たたき台）」において、「小・中・高等学校を通じて、『知識・技能』『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の3観点に整理すること」が示されています。特に、資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要であると示唆され、今研究の中でもこうした方向性を取り入れることが重要だと考えました。また、学習評価が教師・子どもともに授業改善や資質・能力の向上のために役立ち、活用されることが、喫緊の課題であると捉えています。今大会では、学習評価が成績を付ける・付けられるだけの形骸化したものにならないように、再度授業づくりを見直し、生徒が主体的に造形活動するための評価について検討し提案したいと考えています。

現在、新学習指導要領で行われる3観点での評価について具体的には公示されていませんが、ワーキンググループ資料「今後の方向性（たたき台）」において、国立教育研究所で作成される参考資料に言っています。「学習指導要領改訂を受けて作成される、学習評価の工夫改善に関する参考資料についても、詳細な基準ではなく、資質・能力を基に再整理された学習指導要領を手掛かりに、教員が評価規準を作成し見取っていくために必要な手順を示すものとなることが望ましい。」とし、子どもの特性や題材のねらいに即して、教師がいかに評価を設定し、見取っていくかが重要であるとされています。こうした評価に関する参考資料や現行学習指導要領を参考に、新学習指導要領で身に付けさせるべき資質・能力を評価するために、3観点での評価を提案したいと考えています。

#### 〈具体的な手立て〉

- 指導と評価の一体化（評価を生徒の評価だけで終わらせず、指導改善の材料とする）を図り、題材間のつながりを明確にしたり、生徒の発達段階に応じた評価計画を作成したりして、カリキュラムマネジメントを進める。
- 造形活動中に表現を模索する中でのつぶやきや子ども相互の対話的な活動、パフォーマンスなどの様子をメモしたり、映像で記録したりするなど、子どもの学びを見逃さない工夫としてメモやICT機器を積極的に活用する。
- 作品、アイデアスケッチやワークシート、発表や交流などの生徒の考え方を授業に還元し、自己の振り返りや表現方法の考えを深めることができるようにする。
- 自己評価、他己評価、ワークシートやアイデアの表現の記録、造形活動の様子の写真や動画、完成作品など、様々な評価資料を用意し、「『わたし』を映す」活動を達成している様子や場面を見取れるよう、多面的・多角的な評価を行う。





## ②資質向上

### ○実技研修会

指導に悩みを抱えていたり、困難さを感じていたりする教師のニーズを捉え、部員やOBが講師になり、図工・美術の授業をサポートする実技研修会を企画・実施する。この研修会は図工美術部員だけではなく、全ての小中学校に広く参加を呼びかけており、免許外の方にも研修会に参加していただいている。具体的には、北海道教育大学岩見沢校で教鞭をとっている阿部宏行教授を講師に招いて絵具を用いた実技研修を行ったり、写真家の方を招いて授業で使えるカメラワークや写真加工の実技を教わったりするなど、学校種や専門にかかわらず、気軽に参加できる内容を企画している。

### ○作品交流会

自分の担当する学級の全子どもたち作品を持ち寄り、題材設定時の悩みや子どもたちの活動の様子、作品に対する思いなどを交流する。作品を見ながら、子どもたちの困り感やつまずきなどについて具体的な指導法や支援、言葉かけなどを考えることで、子どもたちの実態に応じた指導の仕方や興味関心を引き出すアイデアなどを交流する研修会を企画している。

## ③啓発活動

### ○全道造形教育研究大会を中心とした研究大会の連携

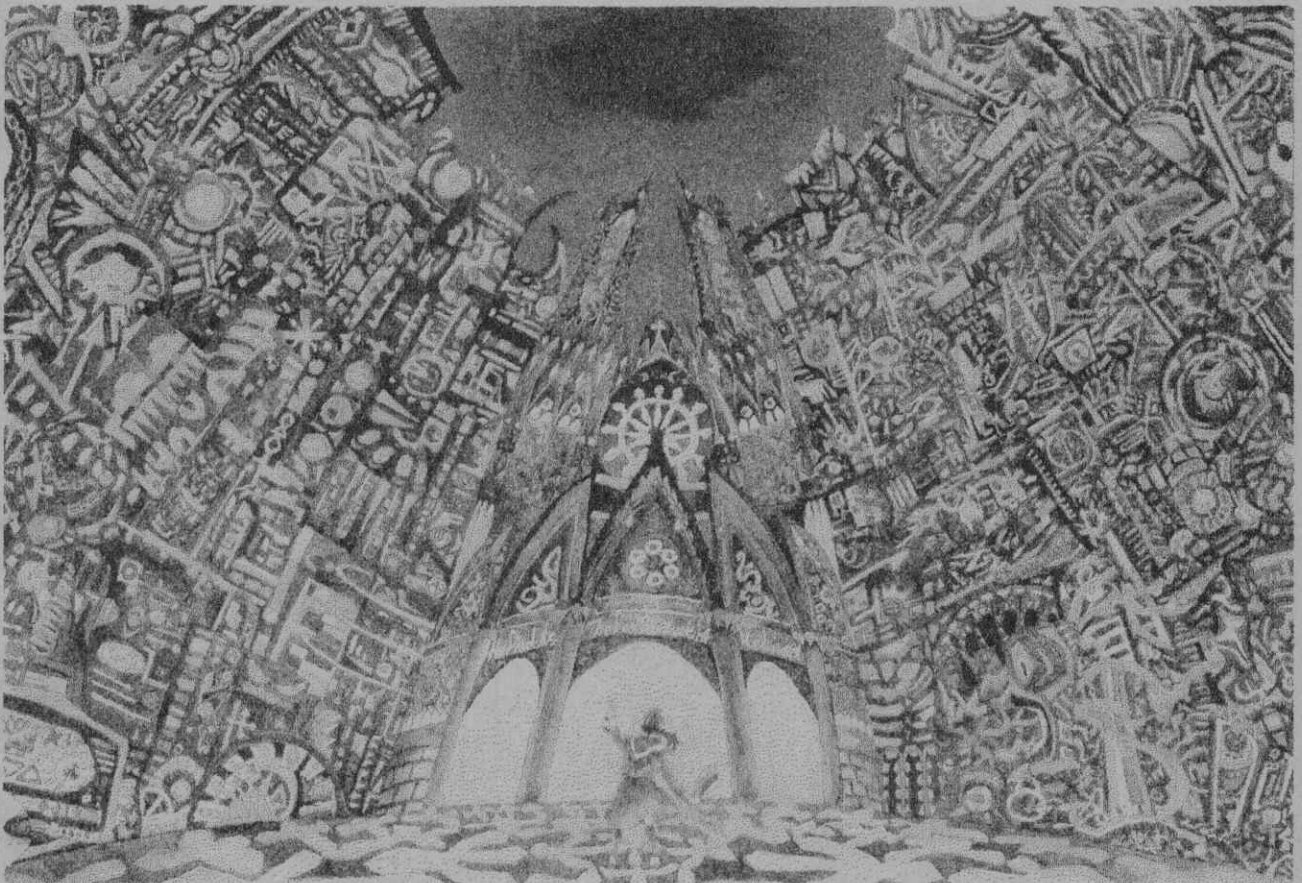
道北ブロック主催の全道大会を視野に入れ、今まで旭川、上川などそれぞれの地域で独立して行っていた研究大会に関連をもたせ、研究テーマを共有したり、お互いの研究大会へ積極的に参加したりすることで、道北ブロック内の研究を活性化している。研究授業は、小学校と中学校でローテーションすることで隔年ごとに研究授業を行っている。また、表現と鑑賞の活動についても、過去の実施状況を確認し、計画的に実施している。道北ブロックは上川、留萌、宗谷の3つの管内から構成されており、広い地域で頻りに集まることができないというデメリットも、研究大会に積極的に参加し有効に活用することで、交流を深め研究を進める機会としている。また、図工・美術が専門ではない授業者を研究部でバックアップして研究授業に取り組んでもらうことで、図工・美術の楽しさを実感し今後も研究を続けてもらうきっかけとしている。

### ○子どもたち作品展審査研修会

旭川市子どもたち作品展の活動を中心とし、図工・美術部会の会員だけでなく、作品を出品する学校ごとに代表者を選び参加してもらうことで、審査会を、研修会と位置づけて、「授業題材の取り組み方や指導法」「子どもたち理解」「作品を観る視点」などについて学ぶ場としている。全道造形教育連盟など他地区の役員にも参加してもらい、作品や審査会から見てくる図工・美術の現状の課題や今後の研究の方向性などについて交流を深めている。



# 学習指導の概要



「Thunderer」 旭川市立愛宕中学校 3年 佐々木 彩乃

(平成30年度旭川市児童生徒作品展 旭川市長賞)

授業 No. 1① 幼稚園年中 表現学習指導の概要

題材名：「おしやれな黒ネコ」

領域：表現（描画活動）

重視して育てたい力 着想力～自由な発想（思考力・判断力・表現力等）  
コミュニケーション能力～友だちや先生との伝え合い  
（主体的に学習に取り組む態度）

指導者 長濱 萌

対象 認定こども園

百華幼稚園

ちゅーりっぷ組 21名

1 題材の目標

- ・絵に込めた思いを言葉で伝え合いながら自分らしい見方・感じ方を深める。（思考力・判断力・表現力等）
- ・共感性を働かせて想像を広げながら描くことを楽しむ。（主体的に学習に取り組む態度）

2 子どもの理解

年少時から、一人ひとりの思いを大切に造形遊びを進めてきた。中でも、材料や技法との出会いや行為を楽しむことや見立てる遊びを多くしてきた年少時から、年中では共感性をもって想像の世界で遊び込む描画遊びが増えており、今後、思いを伝える遊びへとつながっていくと考える。

年中になって初めて触れた「墨」では、初めは筆運びの気持ち良さを感じ、自由に楽しんでいたが、新たな技法を伝えると、気付いたことを友だちと共有しながら確かめるなどして、墨との出会いを楽しんでいた。

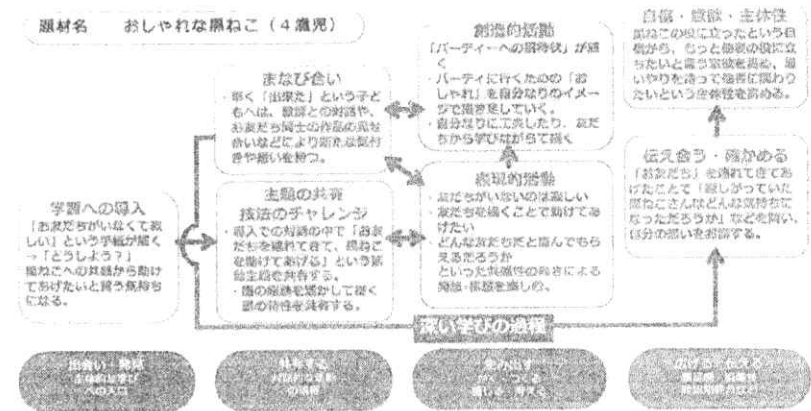
このような遊びを経験しながら、絵を描くことを楽しみ、それぞれの思いをもち、発想を広げて表現することができる子どもたちである。一方で、描きたいことを思いつくものの、淡泊な活動に終始する子どもも見られる。

そこで、本時の学びの過程として、「文化的実践としての学びの過程」を取り入れ、「主体的な学びの入口」として、幼児期特有の「共感性」、つまり他者を助けたいという“愛他心”に働きかける対話的な導入の工夫を行った。

また、実際に描く「表現的活動」「創造的活動」に並行して、活動主題を共有し、材料用具・技法について確認し合ったり、お互いの表現から学び合ったりする「共有する」過程を設定した。

本時の活動、また今後の活動において、想像の世界の中で共感性を発揮して遊べる活動を積極的に取り入れ、「伝え合う・確かめ合う」ことを通して他者の気持ちを自分の気持ちに重ね、愛他心をもち、他者のためになることの喜びと自信から意欲を高め、生活の中で積み重ねた様々な経験を生かしながら、自分なりの思いをもって主体的に他者に関わる姿勢を育てたい。

＜本時の学びの過程＞



参照：大橋（2018）による「文化的実践としての学びの過程図」。

3 題材構成と指導計画（全2時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
感じる 生み出す	1	想像の世界の中で楽しく遊ぶ 描画活動	墨遊びの経験を活かしながら、“助けたい”という思いをもってネコを描く。
広げる 伝える	1	さらに想像を広げて楽しく遊ぶ 描画活動	様々な素材を組み合わせ、描いたネコに飾り付けをして楽しむ。

【授業の見どころ】

主体性を育む保育のために、共感性から子どもたちが“やりたい”“楽しい”と感じながら遊びに向かう関わり方を大切にしている。

導入からそれぞれが相手への思いをもって描画に取り組もうとする様子、子どもたちが保育教諭に思いを伝え、保育教諭が思いを聞く様子をご覧ください。



授業 No. 1 ② 幼稚園年長 表現学習指導の概要

題材名 「つないで つなげて つながれば」

領域 表現（素材体験）

重視して育てたい力・着想力～自由な発想（思考力・判断力・表現力等）  
 追求力～試行錯誤しながら試したり生み出したりする  
 （主体的に学習に取り組む態度）

指導者 新井 美喜  
 対象 認定こども園  
 百華幼稚園  
 ゆり組 28名

1 題材の目標

- ・種類の違いや特性を考えながら遊ぶ。（思考力・判断力・表現力等）
- ・一人ひとりが試行錯誤する中で表現する力を育む。（主体的に学習に取り組む態度）

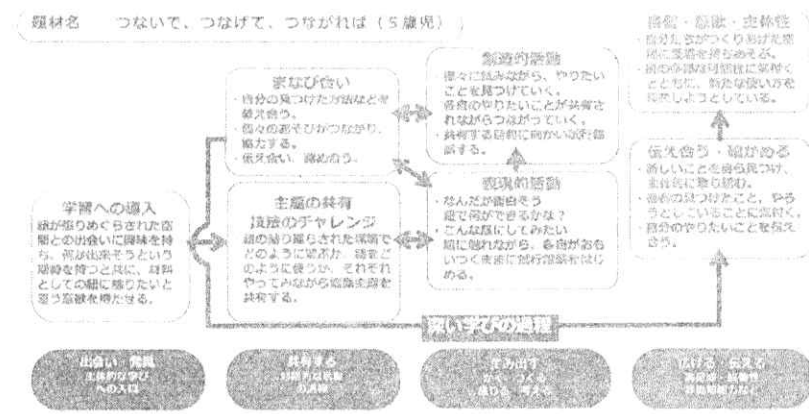
2 子どもの理解

幼児期は様々な力のベースを担う時期であり、様々な経験が相互に関係し合って育っていくため、園生活では多様な経験ができるよう配慮している。造形遊びでは、一人ひとりの思いを大切に進め、技法との出会いや行為を楽しむこと、見立てて遊ぶ経験を重ね、年中時には身近素材や絵の具等素材の特性を活かした遊びの経験を深めてきた。素材遊びや絵の具遊び等意欲的に取り組み、友だち同士で見せ合う姿が見られている。

年長児の目指す姿として、目的をもち、試行錯誤しながら材料や用具を選んだり友だちと協働して取り組んだりすることが挙げられるが、遊びとして大切なことは、初めから目的があって取り組むばかりではなく、「つくり、つくりかえ、つくる」なかで、想いが芽生え、目的が仲間と共有されていくことである。本時の活動では、素材との出会いが楽しい造形活動としての遊びの入口となり、素材の特性に気付きながら試行錯誤を繰り返す中で自分の思いを表現・創造し、友だちの想いや考えに目を向けながら、想いを共有し創り出していくことを目指したい。また、子どもたちにとっては新しい素材であり、身近素材としては一度にたくさん触れる機会が少ない「紐」を取り入れ、遊びの中で手指の巧緻性を育めると考えた。

紐やそれらが生み出す空間との対話を楽しみながら思考力や表現力を育み、今後の遊びにおいても積極的に素材に関わり工夫を重ねる姿、目的をもってやりとげたり生み出したり友だちと想いを伝え合ったりして遊びを深めていく姿勢につなげていきたい。

<本時の学びの過程>



3 題材構成と指導計画（全1時間）

視点	学習内容	子どもの姿
感じる	素材と出会う	・部屋のあちこちに素材を見つけ、興味をもって関わっていく。 ・どのような素材があるのかを知り、興味関心を広げる。
想う 生み出す	素材を遊ぶ	○「つくり、つくりかえ、つくる」中で ・素材を使い、様々な行為を楽しみ、それらを繰り返しながら素材への視点を広げていく。 ・それぞれが試行錯誤しながら友だちの発見や行為を共有していく。 ・共有した発見や行為から目的やイメージを共有し、その実現に向けて協働的に試行錯誤する。
振り返る	鑑賞する	○友だちや保育教諭と想いを伝え合う中で ・自分たちのつくりあげた空間を見て愛着と自信をもつ。 ・材料としての紐の魅力と可能性を知る

【授業の見どころ】

様々な素材や道具、友だち・保育教諭との関わりを通し、子どもたちが「材料と出会い」「行為を楽しむ」ながら、「つくり、つくりかえ、つくる」造形遊びの、保育としての価値を共有できればと思います。

授業 No. 2① 幼稚園年長 表現学習指導の概要

題材名「こっぱっぱ はっぱっぱ」～みんなでわくわくランドをつくらう～

領域 表現（素材遊び）

重視して育てたい力 着想力～自由な発想（思考力・判断力・表現力等）

追求力～創意工夫 課題解決能力～試行錯誤

コミュニケーション能力～友達との会話

（主体的に学習に取り組む態度）

指導者 佐藤 羽由佳

補助指導者 生駒 知絵梨

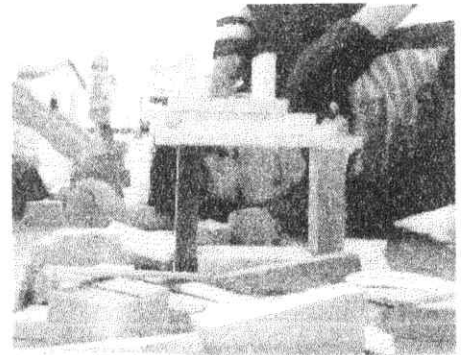
対象 旭川大学附属幼稚園

さくらんぼB組 24名

1 題材の目標

植樹や木の剪定、枝拾いなどの農業高校との交流を通して、木の温かみや強さ、成長を感じる体験を行ってきた。日常生活の中で、既製品で遊ぶことが多い子どもたちに、自然素材で遊ぶ楽しさを味わわせたいと考え、この題材を設定した。

- ・ 様々な形の木片、枝、葉、石など身近な自然素材からイメージを膨らませ、工夫して遊ぶ。
  - ・ 友だちと自由に表現する楽しさを味わいながら、自然素材に親しむ。
- 道具 模造紙、段ボール、セロテープ、ひつつき虫、マジック  
○素材 木片・枝・葉・石などの自然物、粘土



2 子どもの理解

好奇心旺盛で初めて触れる物や遊びに興味を示し、意欲的に取り組む子どもたちが多い。また、普段の制作活動では、一人ひとりが自分の世界観を表現し、集中する姿が見られる。今回の活動では、普段から慣れ親しんでいる自然素材を使用して、友だちと楽しみながら表現をすることで、子ども一人ひとりの感性がより広がっていくと考えている。

3 題材構成と指導計画（全3時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
感じる	2	「こっぱっぱ はっぱっぱ遊び」 ・ 積む、並べる、くっつける、組み立てるなど、素材に触れ、楽しく遊ぶ。	・ こっぱっぱに興味をもち、様々な遊び方を見つける。友だちと楽しく遊びながら素材に慣れ親しむ。
想う 生み出す	1	「みんなでわくわくランドをつくらう」 ・ わくわくランドには何があるかイメージする。 ・ 自分たちの「あったらいいな」を自由に表現する。 ・ 友だちと合体させたり、一緒に作ったり楽しく遊ぶ。	・ 様々な素材を選び、試していきながらイメージを深め、工夫しながらいろいろ表現する。 ・ 制作を進めていく中で、友だちと見せ合いながら、表現することを楽しむ。
振り返る		「わくわくランドで遊んでみよう」 ・ 自分の作品を見てもらう。 ・ 友だちの作品の良さに気づく。 (後日、A組の作品と合体させたり、遊んだり、他学年に紹介したりする。)	

【授業の見どころ】

- ・ 想像力をふくらませながら一人ひとり工夫し、作品を作り上げていく姿。
- ・ 友だちと一緒に作品を作ったり、作品を見せ合ったりしながら楽しく遊ぶ姿。

授業 No. 2② 幼稚園年長 表現学習指導の概要

題材名：「わくわくトンネル」 領域：表現（素材遊び） 重視して育てたい力：着想力～自由な発想（思考力・判断力・表現力等） 追求力～創意工夫 課題解決能力～試行錯誤、 コミュニケーション能力～友だちとの会話 （主体的に学習に取り組む態度）	指導者：阿部 清香 補助指導者：齋藤 真子 対象：旭川大学附属幼稚園 さくらんぼA組 24名
---	---

1 題材の目標

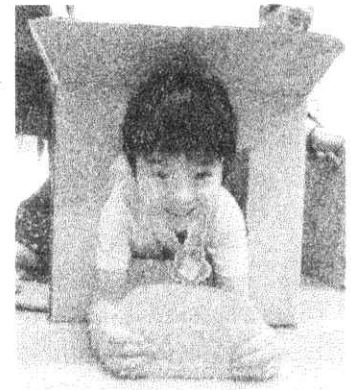
本園では、廃材コーナーが設けられており、子どもたちは自分の好きな時に工作遊びをすることが出来る。そのため日頃から自分の考えを自由に表現することに慣れ親しんでいるため、この題材を設定した。

- ・段ボール、廃材など多様な材料の中から想像力を膨らませ、楽しくトンネル作りをする。
- ・グループ活動を通して、友だちと協力をして作り上げる楽しさや達成感を味わい、仲間との一体感を感じて遊ぶ。

○道具 マジック、ガムテープ、セロハンテープ、はさみ、

段ボールカッター、ブルーシート

○素材 段ボール、ビニール袋、カラーセロハン、廃材、ストロー、スズランテープ、木の枝、葉っぱ



2 子どもの理解

さくらんぼA組の子どもたちはひとりひとりが自分の好きな遊びを見つけ、楽しむ姿が見られる。その中でもドッチボール、おままごと、ブロック、どんぐりこま対決をしている子が多い。どんぐりこまでは友だち同士で対決をする中で、どうすると強いこまを作れるのかを自ら考え、工夫をするなど探求心を持って取り組んでいる。また、新しいことに対して興味関心を持ち、進んで取り組むことができるが、慎重になりすぎてなかなか制作が進められない子も見られる。子どもたちが意欲的に取り組めるように試したり、作り直したりできる環境設定や、子どもが安心できるように声かけを心掛け、のびのびと制作する姿が見られるようにしたい。

3 題材構成と指導計画（全3時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
試す	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段ボールカッターを使ってみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段ボールカッターの使い方を知り、切ることを楽しむ。</li> </ul>
想う 生み出す	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段ボールを切り、友だちと協力しながらトンネル作りを進めていく。</li> <li>・ 廃材など様々な材料を使用し、トンネルの装飾をしていく。</li> <li>・ 実際に作ったトンネルで遊ぶ。</li> <li>・ 振り返りを行う。</li> </ul> （後日、B組の作品と合体させて遊んだり、他学年に紹介したりする。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段ボールを切り、友だちと繋げながらトンネルを作る。</li> <li>・ 沢山の材料の中から自ら選択をし、工夫をしながらトンネルの装飾をする。</li> <li>・ 友だちと一緒に制作をする中で、仲間と一緒に作り上げる楽しさを感じる。</li> <li>・ 友だちや自分の作ったトンネルの中に入って遊ぶ。</li> <li>・ 活動の楽しさや、友だちの作品の良さを話し合う。</li> </ul>
振り返る			

【授業の見どころ】

- ・ 友だちと協力する中で、自分では思いつかない発想に気づき、より活動が発展するところ。
- ・ 試行錯誤しながら想像力を膨らませ、型にはまらない子どもらしい発想で活動する姿。

授業 No. 3 小学校3年 図画工作科学習指導の概要

題材名：「大すきなものがたり」 領域：絵に表す 重視して育てたい力：構想力（知識及び技能） 着想力（思考力・判断力・表現力等）	指導者：大山 みのり 対象：上川町立上川小学校 3年1組 12名
--	--

1 題材の目標

- ・ 感じたこと 想像したことをもとに、自分の表したい場面のイメージをふくらませ、手や体全体を十分に働かせて表し方を工夫し、創造的に表す。（知識及び技能）
- ・ 表したいことや表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、対話などから自分の見方や感じ方を広げたりする。（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 対話を通して自分のイメージを基につくりだす喜びを味わい、進んで表したり鑑賞したりする活動に取り組もうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

2 子どもの理解

- ・ 互いに自分の思いや考えを伝え合う風土ができている。会話からいろいろな思いがふくらみ、想像を広げることができる児童が多い。
- ・ 自分の思いを表すよりよい方法を試しながら考える力を育みたい。



3 題材構成と指導計画（全6時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
感じる	2	・ アイヌの物語の様子や世界観を想像しながら絵に表すことを知り、表す見通しをもつ。	・ 行動や場面の様子から登場人物の姿を想像して描く。
想う	1	・ 物語を想起し、自分が一番すきな場面について想像する。	・ 登場人物を実際に動かしたり会話したりするなど、対話を通して想像をふくらませる。 <b>思・判・表【想う】</b> 評価方法：子どものつぶやき、活動の様子、作品 日：表したい場面のイメージを基に、友だちとの対話などから自分の見方や感じ方を広げている。
生み出す	2	・ 好きな場面を絵に表す。	・ 表したい場面の様子を思い浮かべながら絵に表す。 ・ 想像した様子がよく表れるように、色や形、技法などを試しながら、描画材の使い方を工夫する。
振り返る	1	・ 工夫したところや友だちの作品のすてきなところを話し合う。	・ 自分の作品の工夫したところや友だちの作品のおもしろいところやよいところを話し合う。

【授業の見どころ】

子どもたちが、対話を通して自分の想像の世界をふくらませているか。自分のつくりだしたキャラクターを動かしながら、表したい場面や周りの様子を形づくっていく過程が見られるか。



授業 No. 4 小学校6年 図画工作科学学習指導の概要

題材名：「ひらいてみると」 領域：絵画彫刻・デザイン工芸・鑑賞 重視して育てたい力：構想力（思考力・判断力・表現力等）	指導者：佐藤 賢一 対象：旭川市立近文第一小学校 6年1組 32名
---	---

1 題材の目標

- ・開いた傘やその他の材料で空間に動きかける活動の楽しさを感じたり、美しさに気づいたりすることができる。（知識及び技能）
- ・開いた傘やその他の材料の色や形の特徴などから発想したり、材料の組み合わせ方や並べ方などを試したりして、空間での表し方を工夫することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・開いた傘やその他の材料を並べたり、つるしたりして広い空間に動きかけ場の雰囲気を変えることを楽しもうとしている。

（主体的に学習に取り組む態度）



2 子どもの理解

- ・本学級の児童は、学習意欲が比較的高く、どの教科にも、友だちと協力して共に学び合おうとする意欲が見られる。図工においても意欲的に取り組むことができ、自分なりに工夫して表すことができる児童が多い。型にはまらず、一人一人が自由なアイデアを絞り出して表現することを好む。
- ・前年度の卒業式に、6年生を送るための装飾を傘ボールで作った楽しさが記憶に残っている。傘を開いたときの色や形から発想し、場所の特徴をとらえ、自分なりのイメージをどのように表していくか考えさせたい。

3 題材構成と指導計画（全4時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
5学年	3	光のハーモニー	・場所や材料の特徴を考えながら、作りたいものやテーマを思いつき、光を使った美しい空間を考える。
6学年	3	動きをとらえて 形を見つけて 【〇水をとらえて】	・動きや形が変化していく水の美しさをデジカメでとらえる。
想う	1	開いた傘を使って教室や階段・廊下の 雰囲気を考える。	・開いた傘の形や色の特徴から発想し、思いついたことを試す。 ・友達とイメージを共有し合い、表し方を工夫しながら空間に動きかける。 思・判・表【想う】 評価方法：動画での活動の様子の記録 B：開いた傘やその他の材料の色や形の特徴などから発想したり、空間に傘やその他の材料で表したいことを思いついたりしている。
生み出す	2	校庭でダイナミックな活動を行い、空間の広がりをとらえて活動する。	・1時間目の経験を生かしながら、その場所の特徴や広がりをとらえた活動を行う。
振り返る	1	交流・鑑賞	・デジタルカメラで場所が変化する様子を記録したり、気に入った場所で撮影したりする。 ・お互いに鑑賞し合い、場所の変化に気づく。

【授業の見どころ】

明るい教室や薄暗い廊下・階段で、傘の色や配置による効果を試し、工夫しながら場の雰囲気を変化させていくことを通じて、自分たちの思いを表現させていきたい。

授業 No. 5 中学校 2 年 美術科学習指導の概要

題材名：「わたしを映す生き物」 領域：彫刻 重視して育てたい力：思考と身体の柔軟性（知識及び技能） 適応力（思考力・判断力・表現力等）	指導者：東 加奈絵 対象：比布町立比布中学校 2年A組 26名
--	---------------------------------------

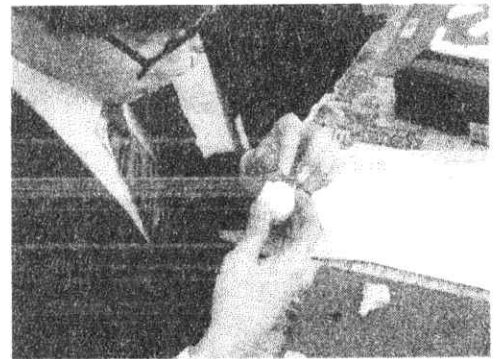
1 題材の目標

- ・粘土の制作を通して造形的な視点をより豊かにし、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を追求し創造的に表すことができる。（知識及び技能）
- ・自己を見つめ、自分の思いや願いをもとに主題を生み出し、私を映す生き物の構想を練ることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・自分の思いや願いを立体に表現する喜びを味わい、仲間の作品に込められた思いや願い、工夫を感じ取ったりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

2 子どもの理解

学習課題に前向きに取り組む、技能の習得や交流活動に意欲的な学級である。一方、主題を生み出し、構想を深める活動にはまだ不慣れな面がある。また、意図に応じて技能を応用し、独自の表現を目指し、多様な表現方法や表現技法について追求していくことに課題がある。

年次に紙粘土で果物や野菜を制作し、造形的な見方や考え方について学習している。また、絵文字の制作の一部に軽量粘土を扱い、絵の具の練り込みによる色づけを経験している。軽量粘土という材料の特性や様々な用具を生かした表現活動は今回が初めてである。そこで、材料や用具を試す活動を取り入れ、性質や特性を理解できるようにする。身に付けた知識や技能をもとに表現方法を追求し、「わたしを映す生き物」を創造的に表現する力を育てたい。



3 題材構成と指導計画（全8時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
1 学年	4	果物、野菜を紙粘土で表現	追求力、構想力、思考と身体の柔軟性、受容力
想う	1	材料（軽量粘土）や用具を試す。	材料（軽量粘土）や用具を試し、発想、構想、表現方法や表現技法の手がかりをつかむ。
感じる	1	学習の見通しをもつ。 主題を生み出す。	想像の生き物に込められた人々の思いを感じ取る。 材料や用具の体験、マッピングを通して主題を生み出す。
想う	1	構想を深め、制作の見通しをもつ。	主題をもとにわたしを映す生き物の形や色、特徴などについて考え、スケッチで構想を深める。
生み出す	1/4	全体のイメージをつかむ。	構想をもとに、粘土等で大まかに形をつくる。
	2~4/4	自分の思いや願いに応じた表現の仕方を工夫し粘土で表現する。	意図に応じて表現方法を追求し、創意工夫してわたしを映す生き物を生み出す。 <b>知・技【生み出す】</b> 評価方法：制作の様子、作品 B：自分の思いや願いをもち、材料や用具の特性を生かし、創意工夫して表現している。
振り返る	1	制作を振り返り、作品交流をする。	制作を通して学んだことを振り返ったり、作品に込められた思いや表現の工夫を感じ取ったりする。

【授業の見どころ】

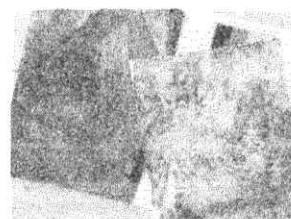
実際に制作していく過程で、「もっとこうしたい」「うまくいかない」など様々な課題が出てきます。「試す」活動で得たことを振り返ったり、仲間の表現の良さや工夫を共有したりすることを通して、自分の意図に合った方法や技法を追求していく子どもたちの姿に注目してほしいです。

授業 No. 6 高校1年生 芸術 I (美術 I) 学習指導の概要

題材名：「イメージしよう！抽象表現の鑑賞」	指導者：河野 昌一
領域：鑑賞	対象：北海道旭川永嶺高等学校
重視して育てたい力：受容力（知識及び技能）	1年3・4組29名
批判的思考力（思考力・判断力・表現力等）	
コミュニケーション能力（主体的に学習に取り組む態度）	

1 題材の目標

- ・自分の選択した作品について、示されたテーマを分析して、自分なりの解釈でテーマに合う部分の技法や造形的な要素について、理解することができる。（知識及び技能）
- ・マチエール制作で作った抽象表現の中から、テーマに沿った作品の良さや美しさを感じ取り、他己紹介の作品を選択して、造形要素とテーマの関連について自分なりの考えを基に説明している。  
(思考力・判断力・表現力等)
- ・話し合いに積極的に参加し、自他の選択した作品の良さや美しさなどの特徴を感じ取ろうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）



2 子どもの理解

芸術は3展開（音楽・美術・書道）。2クラス合同で授業を行っており、各29名が授業に参加している。入学時に希望調査を実施し決定しているため、美術への関心は高い傾向にある。

3 題材構成と指導計画（2時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
感じる	1	グループ分け・説明 鑑賞・発表デモ	グループ内でのデモンストレーションを通して、作品の造形的な要素に気がついたり、再認識したりする。
振り返る	1	鑑賞・発表	前時の活動から、さらに詳しく作品を観察し、気持ちやイメージを感じ取り、発表する。 <b>思・判・表【振り返る】</b> 評価方法：発表、ワークシート B：自分のイメージを確かめながら、イメージに合う絵を選び出し、説明することができる。

【授業の見どころ】

授業で制作したマチエールと重色による抽象表現作品を鑑賞します。具体的な形をもたない画面の中に「気持ち」「人物」や「風景」など具体的な要素をイメージすることで、「自ら答えを生み出す鑑賞」を体験します。また、自分の感じたことや考えたことをグループワークの中で「伝える」「発表する」という経験から、プレゼンテーション力や表現力を育てます。29人の感性を感じることも、自分の感性を成長させる大きな刺激となってくれます。





題材名：「ともだち ハウス」 領域：立体に表す 重視して育てたい力：課題解決能力（主体的に学習に取り組む態度） 着想力（思考力・判断力・表現力等）	指導者：盛永 枝里 対象：北海道教育大学附属旭川小学校 2年2組 36名
--	--

### 1 題材の目標

- ・小石などの自然物やペットボトルキャップなどの人工物など、身近なもので作った自分の友だちの外見や内面（性格や特性など）を考慮して、空き箱や紙、ラップの芯などの身近なものの形や絵柄などを生かしながらつなぎ合わせたり積み重ねたりすることで、想像の家を組み立てることができる。  
(知識及び技能)
- ・自分なりの友だちへの思いを基に、様々な材料を並べたり積んだり、つなぎ合わせたりしながら、形や空間などを発想し構想を練ることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・自分の思いや願いを大切にしながら表現の工夫をしようとしていたり、友だちの作品からその人なりの思いや願いを感じ取ったり工夫を見つけようとしていたりしている。(主体的に学習に取り組む態度)

### 2 子どもの理解

児童は今までに、自分の作った作品を紹介したり、友だちの作った作品の面白いところを探したりする活動をしてきた。児童は図工の学習は楽しいと感じており、いろいろな物を作りたいという思いをもっている。一方で自分の表したいものについての思いが強く、題材のねらいからそれたり、イメージが広がらずに活動が停滞したりする様子も見られた。題材を通して児童同士が交流し、友だちの表現を参考にしたり、新しいことを思い付いたりしながら、自分の考えを形にしようとする力を育てたい。



### 3 題材構成と指導計画（全6時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
感じる	0	○「小さな友達」と家を作るための素材を集める。	石や松ぼっくり、卵のパック、お菓子の箱などを探して持ってくる。
	1	○好みや性格などの「小さな友達」のプロフィールと「小さな友達」が喜ぶ家を作ることを知る。	自分が気に入った素材を選び、「小さな友達」がどんな子かを想像して大切に作る。
想う	1	○どんな物があると楽しいかを考える。	「小さな友達」が喜ぶものを考えながら、つくる家のイメージを膨らませる。
生み出す	3	○材料から、どのような「小さな友達」が喜ぶものが作れるか試しながらつくる。 ○友だちと表現や行いを見合い、自分のつくりたいもののイメージを膨らませる。 ○色や形を工夫しながら、「ともだちハウス」をつくる。	作品の中に「小さな友達」を入れて確かめながらつくる。 <b>思・判・表【生み出す】</b> 評価方法：つぶやき、制作の様子（観察） B 自分の「小さな友達」を家に入れて試しながら大きさを考えてつくりようとしている。
振り返る	1	○他の児童が作った「ともだちハウス」に遊びに行く。	友だちが、どのような工夫をしているのかを見つけ、表現の面白さを楽しむ。
次題材	2	○身の回りから顔に見える形を探し、友だちと紹介し合う。	身近なものから顔の形に見立てることができるものを探し、紹介する。

#### 【授業の見どころ】

「小さな友達」の設定を考え、よろこぶ家を考えることで、家の形を考えたり、材料の使い方を工夫したりしながら自分の表したいものを追求する学習です。材料を試行錯誤したり、友だちからヒントを得たりしながら、表現と鑑賞を繰り返して自分なりの表現を追求する児童の姿をご覧ください。

授業 No. 9 小学校5・6年 図画工作科学習指導の概要

題材名：「版から広がる世界」	指導者：阪部 あずさ
領域：絵に表す	対象：美瑛町立美馬牛小学校
重視して育てたい力：構想力（知識及び技能）	5・6年生 6名

1 題材の目標

- ・彫り進み版画の特徴を自分なりに理解し、自分の表したい場面のイメージをもって、それを大切にしたい表現方法を工夫する。（知識及び技能）
- ・修学旅行の思い出から表したい場面のイメージを基に、色や彫り進め方を試して表したいことの構想を練る。（思考力・判断力・表現力等）
- ・自分の表したいイメージを大切にしたい表現の工夫をしようしたり、友だちの作品から工夫を見つけたりしようとする。  
(主体的に学習に取り組む態度)



2 子どもの理解

- ・描きたいことや作りたいもののイメージをわかせることが好きな児童が多い。
- ・複式で学習を進める教科もあり、図画工作でも子ども同士で交流する場面を設定している。
- ・試しの活動で自分の表現を振り返らせることにより、思いを彫りの表現に生かす方法を考える力を高めたい。

3 題材構成と指導計画（全8時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
感じる	1	〈下描き〉 ・修学旅行の思い出をイメージマップにまとめ、下絵を考えかく。	・今まで学習してきた版画の技法につて、効果の違いを振り返る。 ・版に表したい内容を下絵に描く。
想う	2	〈試す活動〉 ・刷りの効果を試しながらスチレンボードに表してみたい形を彫る。	・スチレンボードを使って色の変化や彫り方を試し、楽しみながら刷る。
想う	1	〈下描きを写して彫り始める〉 ・制作の見通しをもち、下描きを版に写して彫る。	・カーボン紙を使い、下絵を版に写す。 ・配色計画を立てながら制作の手順を考える。
生み出す	2/3	〈彫って刷る＝試しの活動〉 ・彫刻刀の特徴や彫りの効果を生かしながら彫り進める。	・どの部分から彫っていくかを考え、色の変化やインクの量を工夫する。 ・彫りの効果を話し合い、自分の表したい思いに近づけようとする。 <b>知・技【生み出す】</b> 評価方法：観察、作品 B：試しの活動で刷った作品を参考にしながら、版にどのように生かすか試しながら理解している。
振り返る	1	〈鑑賞〉 ・色や形の表れ方に注目し、試しの活動や意見を交流したことで作品に生かされた部分を振り返る。	・刷り上がった作品から、友だちの表現のよさを見つけ発表する。 ・試しの活動や意見を交流したことで作品に生かされた部分を発表する。

【授業の見どころ】

少人数指導を生かして、子どもたちのつぶやきを聞き取ることを大切にしています。試す活動を取り入れることで自分の感覚や活動に主体的に取り組もうとする様子を見てください。

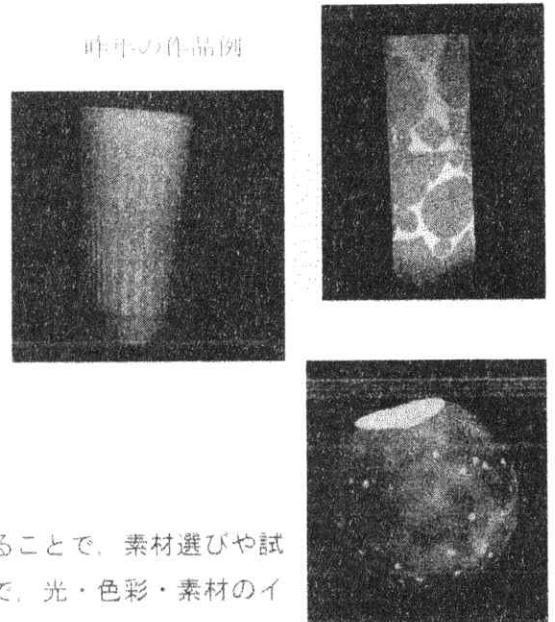


題材名：心をともし灯り 領域：デザイン・工芸 重視して育てたい力：構想力（知識及び技能） 適応力（思考力・判断力・表現力等）	指導者：島本 さとみ 対象：士別市立士別中学校 2年B組 30名
---	--

### 1 題材の目標

- ・紙の特性を感じ取りながら、自分なりの光による空間の演出へのイメージをもって、それを大切にしたい表現方法を工夫することができる。（知識及び技能）
- ・自分なりの光による空間の演出へのイメージを基に、紙の性質を生かした加工方法を試したり光の色合いを確かめたりしながら形や色合いを発想し構想を練ることができる。  
（思考力、判断力、表現力等）
- ・自分のイメージを大切にしながら表現の工夫をしようとしていたり、友だちの作品からその人なりのイメージを感じ取ったり工夫を見つけようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

昨年の作品例



### 2 子どもの理解

美術が好きで、真剣に取り組む生徒が多い。様々な素材を提示することで、素材選びや試しの活動が活発になると考えられる。光を扱った題材は初めてなので、光・色彩・素材のイメージを全体で共有していきたい。

### 3 題材構成と指導計画（全7時間）

視点	時数	学習内容	子どもの姿
感じる	1	鑑賞	光や素材が与えるイメージに触れ、灯りを置きたい場所を考える。
想う	1	試しの活動 様々な紙からイメージを広げる活動	材料の特性に触れ、表現の構想を広げる。 思・判・表【想う】 評価方法：活動の様子記録、道具や素材の使い方の見取り B：紙の性質を生かした加工方法を試したり光の色合いを確かめたりしながら形や色合いを発想し完成のイメージをもっている。
想う 生み出す	1	試しの活動・制作	材料の特性に触れ、表現の構想を広げる。
生み出す	3	制作	材料の特性などから見通しをもって制作する。
振り返る	1	鑑賞	皆の作品を鑑賞し、表現の意図について考える。

#### 【授業の見どころ】

子どもたちは、たくさんの素材を見て、触って、光に当て、それを繰り返す中で特性を知識として学んでいきます。「これ使ってみよう」「どれを組み合わせよう？」と楽しみながら選ぶことができる授業を目指していますので、ぜひご覧ください。





## 上川旭川美術部連携協議会とは

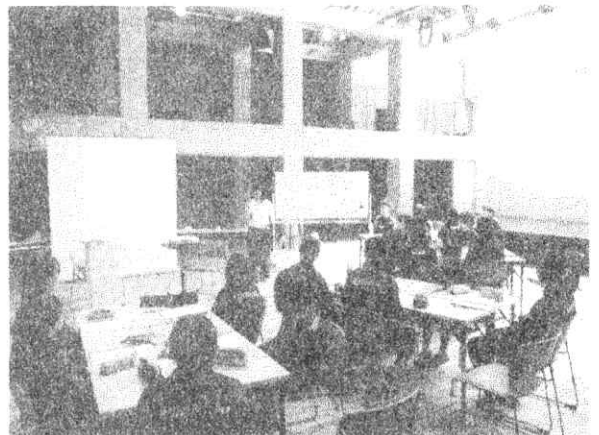
上川旭川美術部連携協議会とは、上川管内のほぼ全ての中学校美術部が加盟している団体で、今年で発足して10年目を迎えます。現在は、32校が登録しており、美術部員数的には840名を超える団体になっています。美術部の活性化および造形活動に対する認知向上を目指しています。

主な活動としては、旭川地域連携アートプロジェクト（北海道教育大学旭川校、北海道立旭川美術館、旭川市彫刻美術館、旭川市教育研究会図工・美術部会、上川造形教育研究会、上川旭川美術部連携協議会が、加盟している）という造形教育に携わっている団体が主催している美術館での鑑賞会やワークショップ、そしてこの美術部展、さらには昨年度は道立近代美術館へのバスツアーなども実施しています。美術部人口が、年々増加傾向にあり、活動が注目されている団体です。

### 【主な活動】



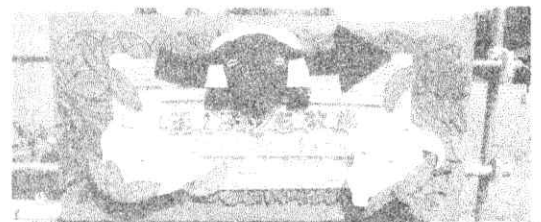
旭川美術館での鑑賞会



様々なワークショップ



美術部展

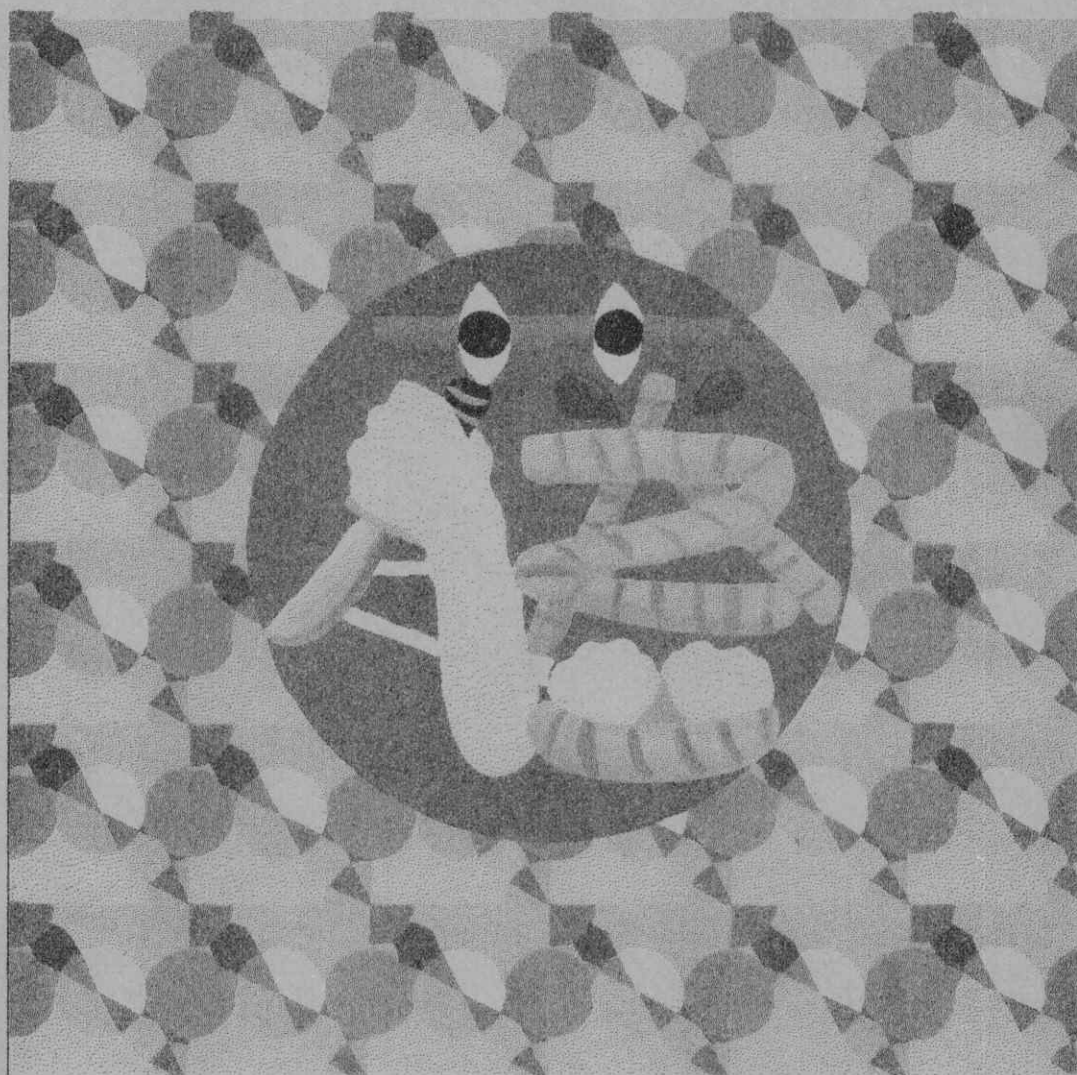


旭山動物園の  
看板制作





# 規約・研究のあゆみ 地区サークル・名簿



「絵文字がしゃべりだす」 旭川市立光陽中学校 1年 伊藤 千沙希

(平成30年度旭川市児童生徒作品展旭川市長賞)



## □ 北海道造形教育連盟規約

### 1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道の造形教育の振興を図るをもって目的とする

### 2. 事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う

- ①研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
- ②造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
- ③会報の発行
- ④他の造形教育団体との連絡提携
- ⑤その他、本連盟の目的達成に必要と認められる事項

### 3. 会員

会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員  
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

### 4. 組織

地区サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する  
本部 本連盟の本部は、札幌に置く

### 5. 構成及び任務

#### ①役員

会長 1名 本連盟を代表する  
副会長 若干名 会長を補佐する  
会計監査 2名 会計の監査をする

#### ②委員

地区委員長 地区1名 地区サークルを代表する  
地区委員 地区1名 地区サークルの連絡調整にあたる  
(地区委員は、地区委員長を兼務してもかまわない)  
常任委員 若干名 会長が委嘱し、本連盟の運営に当たる

#### 顧問

顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる  
③部長 各部推進の要として常任委員より会長が委嘱し、会務の分掌及び執行にあたる

### 6. 選任

会長、副会長、会計監査は委員総会で選出する  
地区委員長及び地区委員は、地区サークルで選出する  
常任委員は会長の委嘱による  
顧問は委員総会において委嘱する

### 7. 任期

役員及び委員の任期は1カ年とする、但し再任を妨げない

### 8. 会議

総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する  
委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する  
役員及び事業の年度計画等につき審議する  
常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する  
役員会 会長、副会長、事務局長、会計により構成し、必要に応じ会の運営について協議する  
部長会 本部役員、各部部長により構成し、必要に応じ各部事業等についての連絡調整を行う

### 9. 会計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する  
会費 会員は、一人 年額 2,000円を納入するものとする  
地区サークルは、年額 10,000円を納入するものとする

### 10. 事務局

事務局は事務局長在勤の学校に置く  
事務局長は常任委員中より会長が委嘱する  
事務局には必要に応じで各部を設け、業務を分担する  
事務局に事務局次長、会計担当を置く

### 11. 年度

本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる

### 12. 規約の改廃

規約の改廃に当たっては特別委員会（規約改正委員会）を設け、規約改正案を総会に提出する  
本規約の改廃は委員総会の決議による

(平成6年4月29日改訂)  
(平成19年4月28日改訂)  
(平成21年4月総会にて改訂)

# 全道造形教育研究大会のあゆみ

年	回	開催地	テ　　マ	委　員　長 会　　長	備　考
1949年			(札幌美術連盟組織 全国図画工作教育講習会)		
1951年	第1回	札　幌	情操教育の一環としての本道図画工作教育の進展を図るため	初代 野村 英夫	北海道美術教育会と改称 第1回全道図画工作教育研究集会
1952年	第2回	札　幌	図画工作教育の新思想である創造主義美術教育の諸問題について		北海道図画工作連盟創立
1953年	第3回	旭　川	美術教育の指導とは何か		
1954年	第4回	函　館	図画工作教育実践上の諸問題について		
1955年	第5回	釧　路	図画工作教育における学習指導上の問題の解明		
1956年	第6回	札　幌	造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか		
1957年	第7回	室　蘭	のぞましい造形教育における具体的諸問題について		
1958年	第8回	小　樽	図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか		
1959年	第9回	帯　広	新段階における造形教育のあり方		北海道造形教育連盟と改称
1960年	第10回	網　走	本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう		
1961年	第11回	滝　川	子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか		
1962年	第12回	名　寄	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1963年	第13回	余　市	子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか		
1964年	第14回	札　幌	子どもの創造能力とは何か	第2代 新妻 清	
1965年	第15回	稚　内	子どもの創造能力とは何か		
1966年	第16回	室　蘭	子どもの創造能力とは何か	第3代 赤石 武士	
1967年	第17回	函　館	指導の構築を具体化する		
1968年	第18回	苫小牧	指導の構築を具体化する		
1969年	第19回	札　幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第4代 和田 芳郎	
1970年	第20回	旭　川	ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか		
1971年	第21回	札　幌	造形能力は、どのような指導によって育てられるか	第5代 伊東 将夫	
1972年	第22回	帯　広	未来に生きる子どもの造形教育 (生活に根ざした造形教育をどう高めるか)	第6代 高橋 栄吉	
1973年	第23回	室　蘭	未来に生きる子どもの造形教育 (たしかな表現力をどのように育てるか)		
1974年	第24回	美　幌	未来に生きる子どもの造形教育 (ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか)		第1回教育美術展
1975年	第25回	江　別	未来に生きる子どもの造形教育 (自ら創り出す力をどう育てるか)		
1976年	第26回	岩見沢	未来に生きる子どもの造形教育 (すべての子どもに造形によるこびを)		第1回立体造形展
1977年	第27回	札　幌	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践		
1978年	第28回	函　館	みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践 (すべての子どもが生き生きとくむ学習)	第7代 辻 悦平	
1979年	第29回	旭　川	生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方		
1980年	第30回	苫小牧	ひろがりと深まりの造形教育を求めて		
1981年	第31回	釧　路	創りだす心をよびおこす造形教育		
1982年	第32回	室　蘭	見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを	第8代 遠藤 久男	
1983年	第33回	留　萌	生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動		
1984年	第34回	札　幌	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び)	第9代 種市誠次郎	

年	回	開催地	テ ー マ	委 員 長 会 長	備 考
1985年	第35回	函館	知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動 (心をこめてつくりだす子どもを育てる)		
1986年	第36回	旭川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (つくる心のひろがり求めて)	第10代 森川 昭夫	第39回全国造形教育研究大会をかねる
1987年	第37回	紋別	子どもの心をゆり動かす造形教育 (表現のよここびにひたる子どもを育てる)	第11代 松島 輝男	
1988年	第38回	滝川	子どもの心をゆり動かす造形教育 (ひたむきに創る心を育てる)		
1989年	第39回	帯広	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (君はいま創造のとりこに)	第12代 金井 秀男	
1990年	第40回	苫小牧	広がり、深まり、そして感動を！		
1991年	第41回	札幌	子どもの個性的表現を授ける造形教育 (子どものつくる喜びをひらく)	第13代 佐々木理温	
1992年	第42回	函館	子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実 (感動、そして創造する喜びを)		
1993年	第43回	旭川	思いをあたため心はずませる創る喜びを	第14代 鹿嶋 健	
1994年	第44回	釧路	心ときめく、創造の喜びを求めて		
1995年	第45回	千歳	豊かな心と確かな力をはぐむ造形学習を	第15代 船着 昭弘	
1996年	第46回	札幌	～造形＝愛感美遊創 in 札幌～ 自らの心を拓く造形学習の在り方	第16代 白井 園毅	
1997年	第47回	根室	感性から発し躍動する力を育む造形学習を！	第17代 吉田 俊雄	
1998年	第48回	留萌	楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し寄り添う指導	第18代 芝木 秀昭	
1999年	第49回	網走	オホーツク発 思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～		
2000年	第50回	函館	心の風景(ビジョン)の発信を！ ～豊かな自分づくりを生かす想創活動～		
2001年	第51回	札幌	風よ、大地よ、夢よ、北からはじまる造形の未来 ～(いま)(ここ)(わたし)を基軸にして造形の未来をつくる		第54回全国造形教育研究大会をかねる
2002年	第52回	帯広	広い大地に紡ぐ夢 豊かな感性をはぐむ造形教育	第19代 藤井 正治	
2003年	第53回	滝川	つくる喜びを実感できる造形教育		
2004年	第54回	旭川	豊かに感じ、おもいをふくらませあらかず喜びを 生の造形教育～身体で感じ、感性を磨くための出会いを求めて～	第20代 冨田 泰	
2005年	第55回	函館	めざめる感性(こころ)きらめく個性(かたち) 地域空間がいざなう造形活動のひろがり	第21代 今 裕子	
2006年	第56回	札幌	楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育		
2007年	第57回	釧路	「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて ～つくる喜び、感動する心をつなげていく造形教育～		
2008年	第58回	北広島	豊かな心と確かな力を育む造形教育を！	第22代 菅原 清貴	
2009年	第59回	旭川	身体で感じ・心はずませ・創造する喜びを ～「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて		規約改正により委員長を会長に改称
2010年	第60回	函館	創造!ときめき!実感! ～感性と知性の出会い心うるおす造形活動～		
2011年	第61回	札幌	“わたし”を創る ～自立と共生の造形教育をめざして～		第64回全国造形教育研究大会を兼ねる
2012年	第62回	帯広	つくるとき・つながるとき ～豊かな心をはぐむ造形教育～	第23代 稲實 順	
2013年	第63回	石狩	豊かな心と確かな力を育む造形教育 ～子どもの「こうしたい!」があふれる授業を通して～		
2014年	第64回	旭川	『「わたし」の喜び』あふれる造形活動	第24代 安木 尚博	
2015年	第65回	函館	夢・つくる・人 ～未来をはぐむ造形教育～	第25代 三井 哲	
2016年	第66回	札幌	“すき”が輝く造形活動		
2017年	第67回	釧路	わたしをつなぐ造形活動の時間 ～想いを豊かに育む造形活動の展開～	第26代 阿部 時彦	
2018年	第68回	岩見沢	まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育 ～おもう・さぐる・つながる・つなげる～	第27代 森長 弘美	

名称	北海道造形教育連盟	
住所	〒004-0821 札幌市清田区有明141-2 札幌市立有明小学校	
TEL	011-881-2949	FAX 011-881-9074
	役職名	氏名
	会長	森長 弘美
	副会長	山田 浩人
	〃	吉中 博道
	〃	谷口 光伸
	〃	藤森 久美
	〃	服部 和樹
	会計監査	滝本 都子
	〃	木村 麻岐
	会計長	福島由紀子
	会計次長	櫻田 悟
	事務局長	東 尚典
	事務局次長	堀口 基一
	〃	寺田 実
	〃	八田 博之
	〃	湯浅 大吾
	〃	池田 武彦
	〃	平井 歩
	庶務部部长	森 久根
	庶務部副部长	黒川 友理
	広報部部长	篠原 貴
	広報部副部长	小林 知広
	広報部副部长	渡邊 千晴
	研究部部长	中村 珠世
	研究部副部长 (研究部門)	菊地 惟史
	(教育美術展部門)	佐藤 和音
	(ネットワーク部門)	舘内 徹
	(研修部門)	石川 早苗
	顧問	阿部 賢一
		阿部 宏行
		阿部 時彦
		石井 久
		石割 章浩
		伊藤 恵
		伊藤 英明
		伊藤 正敏
		稲實 順
		小野三枝子
		岡澤 邦彦
		北見市
		札幌市
		札幌市
		函館市
		帯広市
		札幌市
		札幌市
		札幌市
		札幌市
		釧路市
		札幌市



	加藤 雅子	札幌市
	金井 秀男	札幌市
	桑田 正博	江別市
	今 裕子	札幌市
	近藤 貢	函館市
	齊藤 隆博	帯広市
	佐藤吉五郎	札幌市
	佐藤 靖	札幌市
	櫻田 豊	札幌市
	芝木 秀昭	札幌市
	島田 茂	札幌市
	庄 栄一	札幌市
	白井 圀毅	江別市
	菅原 清貴	札幌市
	菅原 良和	旭川市
	角力山 旭	札幌市
	関 建治	恵庭市
	武田 誠	七飯町
	多田 紘一	札幌市
	塚野 昭臣	札幌市
	土谷 敬	函館市
	寺嶋 文憲	札幌市
	寺本 吉明	芽室町
	出村 保	留萌市
	伝住 修一	江別市
	土井 勝典	石狩市
	土井 善範	札幌市
	富田 賢司	札幌市
	富田 泰	札幌市
	墓田 充泰	札幌市
	橋詰 博	札幌市
	早弓 弘行	滝川市
	藤井 正治	江別市
	宝輪 勝巳	釧路市
	松島 輝男	札幌市
	三谷 哲司	札幌市
	三井 哲	札幌市
	村瀬 千樞	札幌市
	安木 尚博	札幌市
	山口 長伸	別海町
	吉田 倭雄	札幌市
	米谷 哲夫	札幌市
	若竹 隆邦	函館市

□ 各地区サークル（地区代表・地区委員・ネットワーク担当者）

ブロック	サークル名・役名	氏名	市町村	勤務校	郵便番号	学校住所	学校電話		
札幌	札幌市造形教育連盟 会長	藤森 久美	札幌市	前田中央小	長	006-0818	札幌市手稲区前田8条12丁目2-1	011-681-4811	
	“ 事務局長	勝田 真塩	札幌市	琴似中	長	063-0004	札幌市西区山の手4条12丁目1-1	011-611-1351	
	“ ネットワーク担当	矢野 宜利	札幌市	ノホ口の丘小		004-0032	札幌市厚別区上野幌2条4丁目5-1	011-893-5055	
道央	石狩造形教育連盟 委員長	山田 浩人	石狩市	樽川中	長	061-3256	石狩市樽川6条3丁目600	0133-74-2352	
	“ 事務局長	山口 浩	恵庭市	柏小	長	061-1425	恵庭市文京町3丁目3-3	0123-32-3579	
	“ ネットワーク担当	竹田 睦生	江別市	野幌若葉小		069-0831	江別市野幌若葉町5-3	011-385-3131	
	空知美術教育研究会 会長	中澤 孝仁	岩見沢市	中央小		068-0026	岩見沢市6条8丁目	0126-22-0285	
	“ 事務局長	遠藤 孝之	赤平市	赤間小		079-1133	赤平市字豊里32	0125-32-3330	
	“ ネットワーク担当	桔梗 智恵美	芦別市	芦別小		075-0012	芦別市北2条東1丁目1	0124-22-2573	
	後志教育研究会 図工美術部会 委員長	嶋影 哲弥	小樽市	奥沢小		047-0013	小樽市奥沢2丁目5-1	0134-23-6295	
	道北	上川造形教育研究会 会長	吉中 博道	美瑛町	美馬牛小	長	071-0462	美瑛町美馬牛南2丁目2-5 8	0166-95-2113
		“ 事務局長	藤原 賢	富良野市	富良野西中		076-0038	富良野市桂木町1番1号	0167-22-2318
“ ネットワーク担当		庄子 展弘	上富良野町	上富良野中		071-0553	上富良野町旭町1丁目1-5	0167-45-2072	
旭川市教育研究会 図工美術研究部 委員長		成田 慎司	旭川市	明星中		070-0025	旭川市東5条1丁目	0166-26-0468	
“ 事務局長・ネットワーク担当		西村 徳清	旭川市	神居中		070-8014	旭川市神居4条5丁目1-8	0166-61-7261	
留萌地方美術教育研究会 会長		滝本 都子	留萌市	東光小	頭	077-0027	留萌市住之江町4丁目	0164-42-1820	
“ 事務局長		小澤 なつき	留萌市	留萌小		077-0038	留萌市寿町2丁目10	0164-42-1720	
“ ネットワーク担当		米澤 卓也	増毛町	増毛中		077-0206	増毛町南曇寒町5	0164-53-1269	
宗谷造形教育研究会 会長		中野 悟	稚内市	富磯小	長	098-6756	稚内市宗谷村富磯	0162-77-2012	
“ 事務局長 兼 ネットワーク		遠藤 大輔	礼文町	船泊中		097-1111	礼文町大字船泊村字大備	0163-87-2149	
“ 研究部長		松尾 道行	稚内市	稚内南中		098-0004	稚内市緑1丁目2561番地	0162-23-4128	
道南		渡島美術教育研究会 会長	仲井 靖典	知内町	知内中	長	049-1103	知内町重内22-1	01392-5-5024
	幹事長・ネットワーク担当	高島 純	森町	森中		049-2311	森町上台町326-1	01374-2-2406	
	研究部長	藤本 大介	鹿部町	鹿部中		041-1403	鹿部郡鹿部町字宮浜281	01372-7-3114	
	函館市美術教育研究会 会長	谷口 光伸	函館市	北昭和 <small>小</small>	長	041-0812	函館市昭和4丁目38-1	0138-45-1070	
	“ 筆頭幹事	水島 賢久	函館市	北日吉 <small>小</small>		041-0841	函館市日吉町4丁目5-5	0138-55-0924	
	“ ネットワーク担当	進藤 宏美	函館市	中部 <small>小</small>		040-0032	函館市新川町30-26	0138-22-2503	
	檜山管内造形教育研究会 会長	晴山 泰史	上ノ国町	河北 <small>小</small>	長	049-0624	上ノ国町字中須田920-6	0139-55-2151	

	事務局長	吉川 聖	江差町 南が丘小 頭	043-0063	江差町字南浜町370	0139-52-0524
	ネットワーク担当	山本 裕子	今金町 今金小	049-4308	今金町字今金108	0137-82-0224
	室蘭市教育研究会造形部 部長	佐々木有美子	室蘭市 蘭北小	050-0063	室蘭市港北町4丁目13-1	0143-58-1125
	苫小牧市教育研究会 造形研究部会 部会長	三和 瑞紀	苫小牧市 拓進小	059-1302	苫小牧市拓勇西町3丁目8-1	0144-52-5010
	日高造形教育研究会 会長	神成 浩	日高町 富川中 長	055-0001	日高町富川北7丁目3-6	01456-2-0026
	事務局長・ネットワーク担当	岩崎 愛彦	日高町 日高小 頭	055-2307	日高町松風町2丁目254	01457-6-2620
道東	十勝造形サークル 委員長	服部 和樹	豊頃町 豊頃中 長	089-5235	中川郡豊頃町中央若葉11	0155-74-2427
	事務局長・ネットワーク担当	村中 鉄也	本別町 勇足中	089-3282	中川郡本別町勇足133-1	0156-23-2200
	帯広市教育研究会 図工美術部会 部長	黒田 正則	帯広市 川西中 長	089-1182	帯広市川西西3線60	0155-59-2014
	事務局長・ネットワーク担当	梅津 美香	帯広市 西陵中	080-0028	帯広市西18条南2丁目2	0155-33-3007
	釧路造形教育研究会 会長	佐々木 幸	釧路市 教育大学 釧路校 教授	085-0826	釧路市城山1丁目15-55	0154-44-3205
	事務局長	日野 道子	釧路市 武佐小	085-0806	釧路市武佐4-3-42	0154-46-1918
	ネットワーク担当	更科 結希	釧路市 附属釧路中	085-0805	釧路市桜ヶ岡7丁目12番2号	0154-91-6812
	オホーツク造形教育連盟 委員長	小野寺哲浩	斜里町 知床ウトロ 長	099-4352	斜里町ウトロ高原20	01522-4-2838
	事務局長	玉造 至	湧別町 上湧別小 頭	099-6501	湧別町屯田市街地98-1	01586-2-2620
	ネットワーク担当	赤岩 穂清	滝上町 滝上小	099-5603	滝上町滝美町	0158-29-2029
	根室造形教育連盟 会長	外川 篤司	中標津町 中標津小	086-1129	中標津町西9条北1丁目2	0153-72-2565
	事務局長	安井 加奈子	中標津町 広陵中	086-1010	中標津町東10条南7丁目1	0153-73-3161
ネットワーク担当	品田 ちよみ	標津町 標津中	086-1651	標津町南1条西3丁目1-5	0153-82-2083	

## □ 事務局

札幌市立有明小学校内

事務局長 東 尚典

〒004-0821 札幌市清田区有明141-2

・TEL … 011-881-2949

・FAX … 011-881-9074

・HPアドレス … <http://hokuzou.kir.jp>

・email … [hisanori.azuma@ctiy.sapporo.jp](mailto:hisanori.azuma@ctiy.sapporo.jp)

## 第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会実行委員会

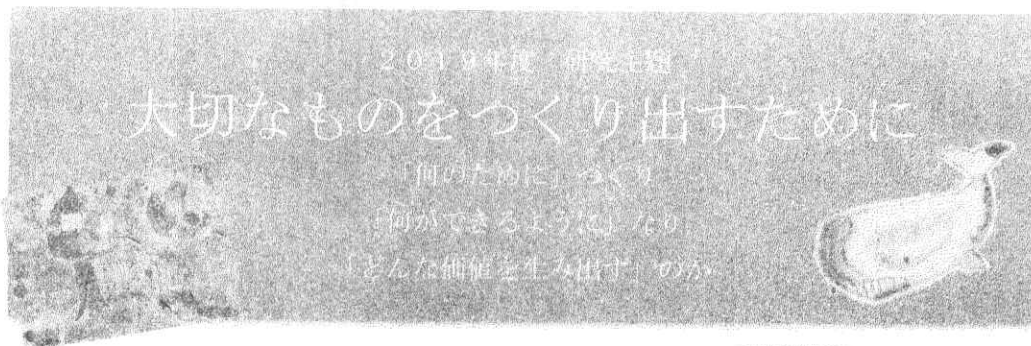
大会長	森長 弘美	札幌市立宮の森中学校
副大会長	山田 浩人	石狩市立樽川中学校
〃	吉中 博道	美瑛町立美馬牛小学校
〃	谷口 光伸	函館市立北昭和小学校
〃	藤森 久美	札幌市立前田中央小学校
〃	服部 和樹	豊頃町立豊頃中学校
実行委員長	吉中 博道	美瑛町立美馬牛小学校
副実行委員長	南部 正人	北海道教育大学附属旭川小学校
	中野 悟	稚内市立富磯小学校
	西岡 裕英	北海道教育大学附属旭川中学校
	駒井 崇	枝幸町立音標小学校
	西田 朋代	上富良野町立上富東中小学校
	宮寄 智	旭川市立日章小学校
	滝本 都子	留萌市立東光小学校
	山口 貴大	音威子府村立音威子府小中学校
	永井 真二	士別市立多寄中学校
	澤田 克之	名寄市立智恵文小学校
	渡辺 悟史	幌加内町立朱鞠内小学校
	中島 圭介	旭川市立東栄小学校
統括部長	成田 慎司	旭川市立明星中学校
統括副部長	佐藤 仁彦	旭川市立知新小学校
事務局長	吉野 法行	旭川市立旭川第二中学校
事務局次長	垣副 澄絵	旭川市立北星中学校
	藤原 賢	富良野市立富良野西中学校
	小澤なつき	留萌市立留萌小学校
	遠藤 大輔	礼文町立船泊中学校
事務局員	鳥本 匡洋	旭川市立北門中学校
	佐藤 賢一	旭川市立近文第一小学校
	中村 靖	名寄市立名寄中学校
	松尾 道行	稚内市立稚内南中学校
庶務・会計	藤山 春乃	旭川市立啓北中学校
	大山みのり	上川町立上川小学校
研究部長	桑村美由紀	旭川市立東陽中学校
研究副部長	藤原 賢	富良野市立富良野西中学校
	石川 和也	旭川市立忠和小学校
	佐藤 賢一	旭川市立近文第一小学校
事業部長	山口 徹	旭川市立豊岡小学校
事業副部長	仁木美乃里	留萌市立留萌中学校
	井山 和博	旭川市立春光台中学校
広報部長	鎌田喜美子	旭川市立朝日小学校
広報副部長	前田 奈美	留萌市立港南中学校
	栄村 麻美	旭川市立新富小学校







石狩造形教育連盟



千歳

恵庭

2019年度中心サークル

石狩圏

(石狩管内教育研究会)

図工・美術部会

石狩造形教育連盟

各地区や全道との架け橋

江別

当別・新篠津

石狩

石教研

基本目標

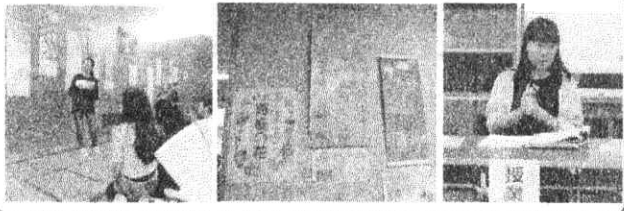
「主体的・創造的に人間性豊かな子供を育てる教育の確立」

基本姿勢

「各自の実践につなげる“協働”研究  
～石狩の子どもの確かな学びや成長のために～」

19の専門部会と13の課題部会から成る教育研究会

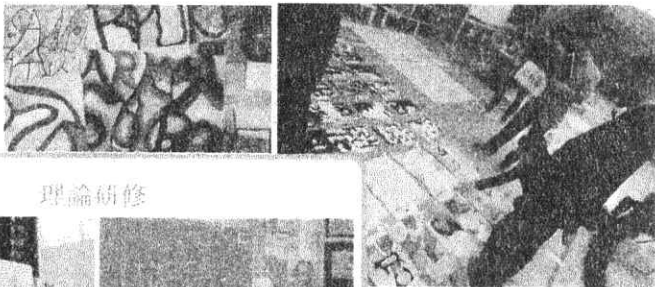
授業



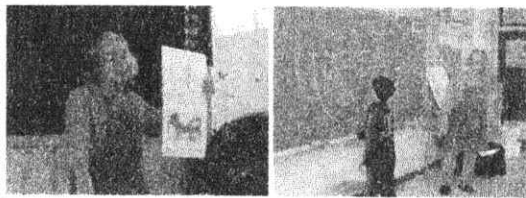
実践交流



作品展



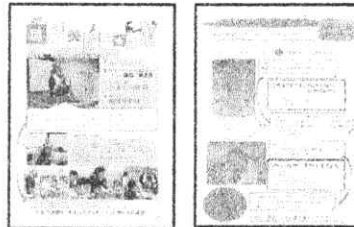
理論研修



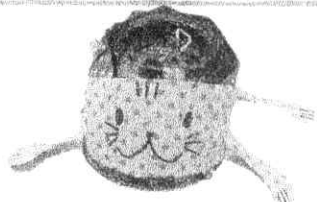
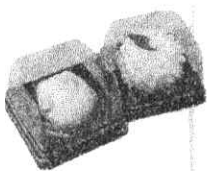
実技研修



部会だより



石狩の作品集





平成30年度 活動報告

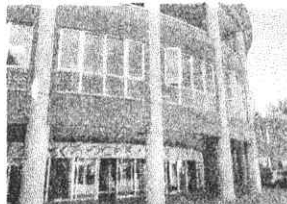
# 空知美術教育研究会

研究主題「まなざしを共有し、おもいをつなげる造形教育」  
～基調 持ち寄り、語ることから始めよう～



Team Hokkaido  
空知美術教育研究会

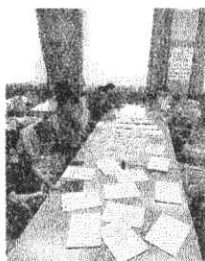
## 第68回全道造形教育研究大会空知岩見沢大会 第55回全空知子どもの作品を語る会岩見沢光陵中大会



平成30年7月27日

「おもう・さぐる・つながる・つなげる」をキーワードに。  
全道造形空知大会・空知の熱い1日に、参加・ご協力いただきありがとうございました。

## 8月10日・11日（毎年固定） 熱く美術教育を語る会 ～深川市 アートホール東淵館



実技講座

講師：（宮城）土屋 聡 先生  
「障子紙アート・ワークショップ」

実践の交流・小中合同での「子どもの作品を語る会」  
道内外の参加・リピーターも。  
夏季休業中の研修のひとつに。  
空美・研究までお気軽にお問い合わせください。

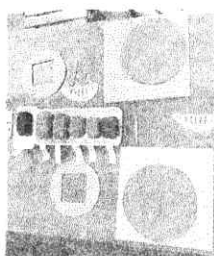


## 新春ゼミ 1月7日（毎年固定）

滝川陶芸センター 大野耕太郎さん  
「色付き粘土でモザイク皿をつくろう」

参加者：10名

アイデアとそれを逆算した準備と技術・設定  
地元の作家さんに学ぶことたくさんありました。



\*空美の情報はFacebook「空美のレシピ」で検索！\*





### 上川造形教育研究会

第16回上川造形教育研究大会開催 平成30年9月26日(水)

士別市立士別中学校 公開授業 「心をともしあかり～特別な日を彩る灯りを制作しよう～」  
中学2年生, 立体デザイン(授業者 島本 さとみ)

概要 ランプシェード制作に向けた「試しの活動」の公開。「言葉」と「材料(紙)」を組み合わせ、加工方法を考える場面。生徒たちは「ふわふわ」、「ぐしゃぐしゃ」などの言葉と「和紙」、「画用紙」などの素材を掛け合わせて、様々な表現を試みた。

研究テーマ

「わたし」を映す

研究主題

自己を見つめ、創造的に表す造形活動

目指す子ども像

自分なりの意味や価値をつくりだし、主体的に表す喜びを味わう子

◎今年度の全道大会に向けて、4つのプレ研を行いました。



・「大すきなものがたり」 平成30年11月19日(月) 美瑛町立美馬牛小学校 3・4年生(授業者:阪部 あずさ) アイヌの物語を題材にした構想画の制作

・「版から広がる世界」 平成30年11月28日(水) 比布町立比布中央小学校 6年生(授業者 木村 文香)「構想力」を育てることをめざした彫り進み版画の表現

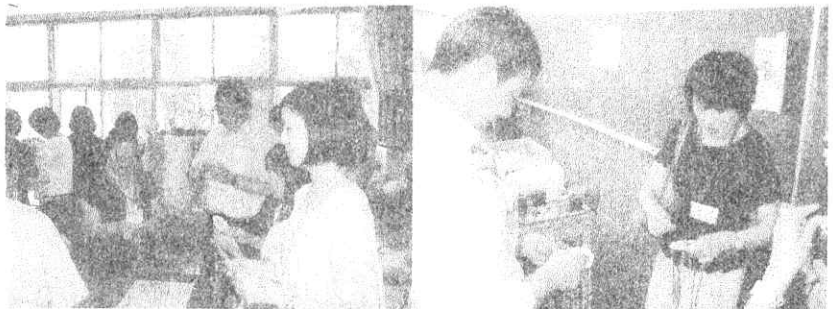


・「想像の生き物をつくる～私に変身～」平成31年1月28日(月) 東川町立東川中学校 2年生(授業者:森 洋) 課題解決能力を育てることをめざして、「私」が変身したい生き物を粘土で表現する授業



### ◎題材屋台

第68回全道造形教育研究大会空知大会において、組みひもブースを開設。旭川市教育研究会図工・美術部と共同で実施。





平成30年度 活動報告

# 旭川教育研究会図工美術部

研究テーマ「わたし」を映す

～自己を見つめ、創造的に表す造形活動～



旭川教育研究会図工美術



## 11月8日 10月研～全道造形研へ向けて！

旭教研の10月研が、10月16日(火)に旭川第二中学校で行われました。



今回の公開研は、「CMを鑑賞する」という鑑賞の授業でした。これは、実際の面白いCMを観て、それがどうして面白いと感じてしまったのか？ということについて考えるというものでした。iPadを使って、それぞれがシーン毎にどのような工夫がされているのかを見つけて出していました。



分科会では、次年度行われる第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会で実施予定の分科会運営で行いました。これは、助言者を立てず、授業者やファシリテーターが、小グループでの話し合いに積極的に入って話を広げていくというスタイルです。一人一人が、授業を見て感じたことや課題について話す機会が持てるというこのスタイルは、なかなか良いですよ。



午後は、今年度の全道造形教育研究大会空知大会の題材屋台村で出店した組み紐作りを皆さんで取り組みました。

道北ブロック大会の造形まつりでは『板締め絞り染め』を体験できるコーナーを設置しています。こちらでもパターンと色合わせを楽しむことができますので、たくさんのご来場をお待ちしております。



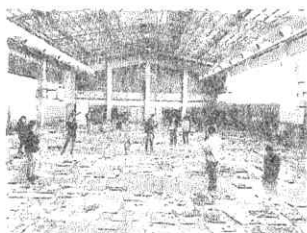
## 1月15日 児童生徒絵画展作品研修会

今年度も旭川市児童生徒作品展の作品審査研修会を実施いたしました。

一次審査研修会では、レギュレーションに合わない作品について、旭教研図工美術部員の皆さんで語り合いながら深めていきました。

二次審査研修会では、市内全ての小中学校の先生方と一緒に選考しました。

およそ、2500点という作品数の中から600点を選出し、さらに特別賞を決定していきました。



旭川市児童生徒作品展・会期：2月14日(木)～2月17日(日)

・会場：旭川市文化会館

平成30年度 活動報告

研究主題

# 子どもの豊かな発想から ワクワクを創造する造形教育

部員数 小学校7名 中学校5名 計12名

2019

Team Hokkaido

留萌地方美術教育研究会

10月24日 留萌管内教育研究所 研修講座

「版画講習会」(教職員対象)

講師 苫前中学校 工藤 臣 先生

「描けない子がのびのびと描くことができるようになること」をテーマに教職員を対象にした研修会を実施しました。図工・美術科の指導に悩みを抱えた先生方のために、指導のポイントや道具の使い方などについてわかりやすく教えていただきました。

研修の様子

制作積極的に取り組む姿が印象的でした。専門家ならではの視点で指導のコツや、声掛けの仕方、効率的な道具の準備など、実践を通して教えてくださったのが、大変わかりやすかったです。

作品を語る会(10月24日 研修講座後)

作品を語る会は、部員が集まって作品を語る貴重な機会です。スクラッチ技術を活用した白画像や針金を使った図工作品など、各校の先生方の工夫を凝らした作品を持ち寄り交流しました。

“何かを創り出す時の原動力は、

ワクワクする心”





# 2019 年度

# より発足!

宗谷造形教育研究会

## 設立の経緯について

これまで、宗谷管内は市町村研の図工美術サークルが、管内の造形活動を進めてまいりました。しかし、それらはそれぞれで独立しており、北海道造形教育連盟への加入はできない状態が続いていました。

ここ近年の間に管内においての図工美術サークルが結成され、管内の図工美術の交流が少しずつ醸成されてきました。また、その中で全道のつながりを持ち始める先生方も出てきました。

そこで、全道レベルでの造形教育へのネットワークを築くとともに、各地域で孤立しがちな造形教育に対する研究の活性化と、それを支援する組織を立ち上げるべく、平成 28 年より準備を進めてきました。そして、その意図を理解し応援してくれる諸先生方の協力もあり、それにむけての体制もできてきました。

折しも、今年度、旭川を開催地として、北海道造形教育連盟の道北ブロックが担当する研究大会が、行われることとなりました。今大会では、都市部を中心としたものではなく、むしろ過疎化しつつある道北圏において、どのように研究を推進していくべきかということを標榜しており、私たちの課題意識とも合致する点が多いと考えられ喜びと大きな期待を感じました。そこで、この大会に運営主体として参加することを大きな契機と捉え、準備委員会を有志により組織し、このたび「宗谷造形教育研究会」という任意団体を設立することとなりました。

まだできて日が浅いので、全道の皆さんの取り組みから色々な事を学ばせていただきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

宗谷造形教育研究会

宗谷で行われている題材の例 (2018 年 北造連盟報に写真掲載したもの)



ランプシェードづくり



段ボールを使った共同制作



宗谷造形教育研究会  
略して宗造 (そうぞう)  
のイメージキャラクター

そうぞうくん

パレットの絵の具の形が、  
なんと宗谷管内の形になっ  
ています。

今年度の研修計画

6月28日(土)

立体凧づくり研修

7月30日(火)

道北ブロック大会参加

11月23日(土)

新学習指導要領学習会



# 函館市美術教育研究会

美の開拓力～未来はぐくむ造形教育～



函館美術教育研究会



「美の開拓力」とは、変化の激しい社会において、人とのかかわりの中で課題を解決し、社会にとって意味のある提案をしながら、社会自体をよりよい方向へと変化させていくことが出来る「生きる力」を有する子どもの姿を意味している。全力で未来をたくましく生き抜くことのできる「美の開拓人」を育てていきたい。

地域を愛し、造形的な資質を身に  
付け、見通しをもって何事にも粘  
り強く取り組むことのできる人

## 函館市小中学校児童生徒美術展



## 美術館鑑賞研修会

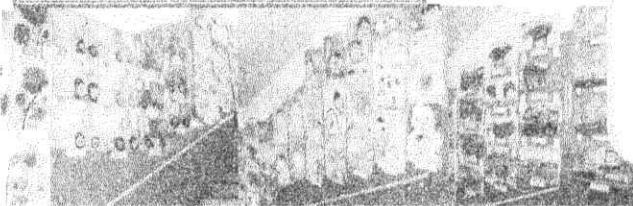


### 美術館と連携！

#### ○授業改善（イノベーション）をし、共有する

- ・ 当たり前のレベルを上げる。
- ・ 実践を収集・記録し、『道南の授業づくり～あたりまえ～』の作成

## 函館市小中学校写生展



#### ○地域素材・人材を大切にすること

- ・ 商いの街・美の街として発展してきた道南のよさを生かし、地域とつながり、広めていくことを大切に、道南らしい地域素材、道立函館美術館との連携・協力。

## 教育大での合同学習会



#### 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

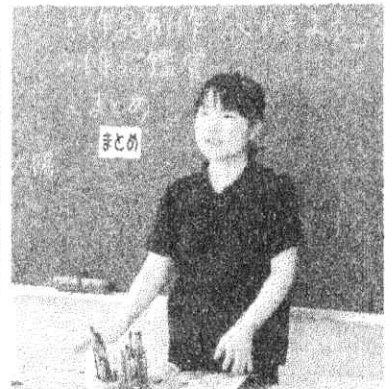
指導案にピクトグラムを活用 → 授業改善！

実現したい子どもの姿をピクトグラム(独立行政法人教職員支援機構)でイメージ化

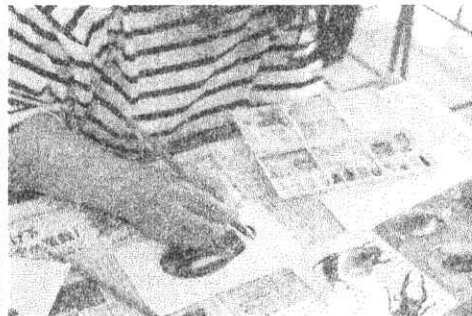




**実技講習会** 8月9日 下重 美加紗 教諭 (平取町立平取中学校)  
 今さら聞けない!? 水彩絵の具のきほん



**実技講習会** 神成 浩 校長 (日高町立富川中学校)



日高の子供の子供を語る会 (公開授業・実践交流) 1月28日 新ひだか町立静内中学校  
 動きのおもしろさを使って (パラパラ漫画) なりきりプレゼンテーションで語ろう!  
 田中 里美教諭 (静内中)



作品で語ろう!



豊かに発想し、主体的な造形表現で

学びを深められる児童生徒の育成

～「児童生徒の資質・能力を高めるための造形活動」を

工夫した授業を通して～

平成30年度 活動報告

# 平成30年度 活動報告

## 研究テーマ「豊かな表現力の育成」

・研究サークル合同研究会 ・十勝子ども大会 ・研修講座など

部員数 25名 ※小学校6名(管理職1名含む) 中学校19名

2019

Team Hokkaido

十勝造形サークル

### 十勝子ども大会 (図工・美術作品展)

11/8(木)～12(日) 場所: 幕別町百年記念ホール

応募された1436点(小931/中505)を審査し、絵画・工作・工芸・彫刻・版画・デザイン、291点を展示しました。応募数は微減傾向。子どもが少なくなり、年々、十勝管内の小中学校も閉校してきています。

学年	絵画		工作・彫刻		デザイン		版画					
	出品	特入	出品	特入	出品	特入	出品	特入				
1年	175	4	20	33	2	9	4	1	3	6	0	2
2年	118	3	15	48	2	12	1	0	1	6	1	3
3年	63	2	10	33	2	8	8	0	3	10	0	2
4年	100	3	16	37	2	9	5	1	4	4	1	2
5年	72	2	12	21	2	5	5	0	1	17	0	5
6年	107	3	16	29	2	7	5	0	3	24	1	7
計	635	17	89	201	12	50	28	3	13	67	4	21
小学校総計 931点 入選173点(特選36点含む)												

学年	絵画		工作・彫刻		デザイン		版画					
	出品	特入	出品	特入	出品	特入	出品	特入				
1年	77	3	15	7	1	2	44	1	12	1	0	1
2年	41	2	9	58	2	13	78	3	20	10	1	3
3年	60	3	13	43	2	11	82	3	17	4	1	2
計	178	8	37	108	5	26	204	7	49	15	2	6
中文選賞は中学校各部門最優秀賞(1点(該当なしもある))												
中学校総計 505点 入選118点(特選・中文選賞22点含む)												



### 第48回十勝管内教育研究サークル合同研究会 11/28

#### 「刃物の研ぎ方」「作品交流」

講師 小泉佳一 教諭 豊頃中学校

刃物はどこまで研げるのか?などちょっとマニアックな話も交えながら、ひたすら彫刻刀を研ぎました(笑)

その後、場所を変え、各校持ち寄った作品の交流。ある一人の生徒に焦点を当て、入学してから今までの作品を並べ、考え方や成長の様子を、作品の変化とともに提示して下さった先生のお話には、簡単に言葉にできない深いものを感じました。

### 研修講座 (図工 8/1) (美術 10/10)

〔図工午前〕新学習指導要領のポイントと図工の指導

講師 佐々木幸 教授 道教育大釧路校

〔図工午後〕アートカードを活用しよう!

講師 金子里奈 教諭 幕別小学校

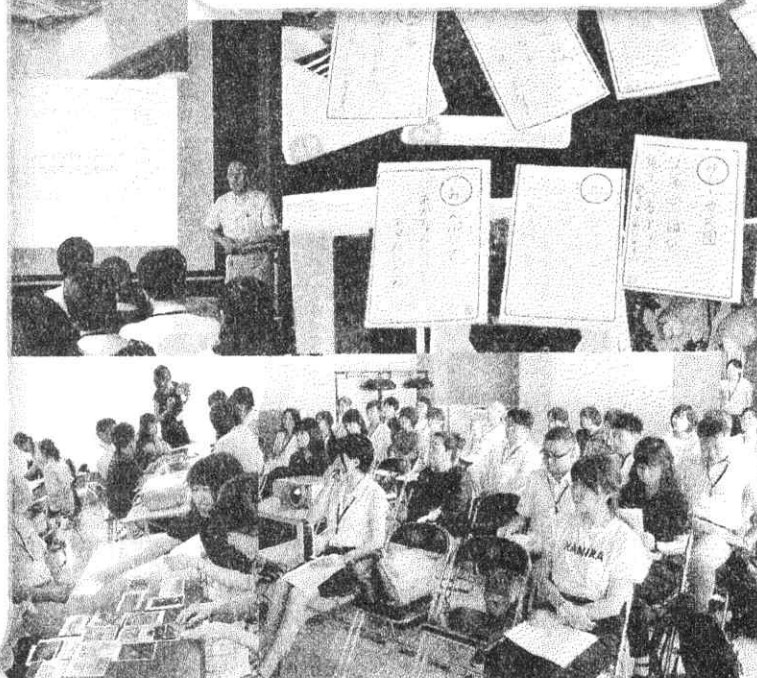
〔美術〕レザークラフト・革についての基礎知識

講師 小泉佳一 教諭 豊頃中学校

講師としてお招きした佐々木教授は「どんな力をつけるのかははっきりさせよう」「その力が世の中でどう生きるのか示そう」「わかる・できるの3側面 ①知識や技術 ②考える力 選ぶ力 決める力 伝える力 ③学ぼうとする態度 人間としての魅力」など、具体的に分かりやすく演題について講義をされました。

金子先生は、道文化財博物館課と美術館の開発に協力したアートカードの活用について、ワークショップを行いました。参加者は新しいカードに興味を持ちながら、楽しく学びました。

レザークラフトは、初体験の方も多量の中、本格的なペンケースとキーホルダーを作成。みんな大満足の講座となりました。





# 図工美術部会

## 研究テーマ 豊かな心をはぐくむ造形教育

### 授業研究

昨年度の授業研究では美術家・阿部典英氏に來帯いただき、それぞれの視点や個性で素材にいのちを与える作品づくりをご指導いただきました。



### 帯広市小中学校造形展

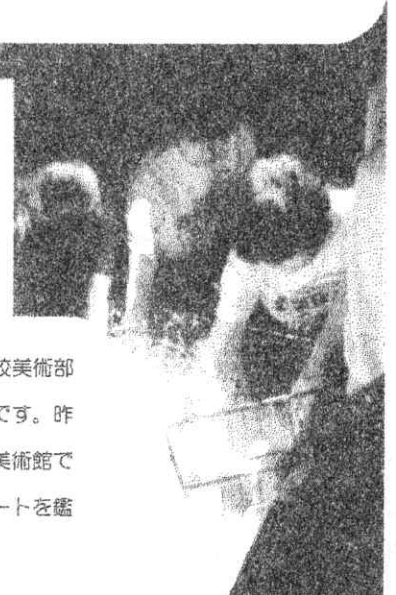
造形展は今年度で49回目を迎えます。市内全小中学校・特別支援校43校が出品。展示数は約2000点。来場者数約2500名。(6日間)造形活動啓蒙の場になっています。

### 市内中学校 写生会 展覧会鑑賞

作品交流研修は部会に所属する全校が作品・実践発表を行います。子どもたちの作品を通して様々な課題や作品の良さ、楽しさを語り合う場です。

市内中学校美術部の合同行事です。昨年度は帯広美術館でデジタルアートを鑑賞しました。

### 作品交流研修





祝！第69回全道造形教育研究大会道北ブロック大会！  
 ～釧路は、北ブロック大会を応援しています～

授業を何より大切にしたい！  
 どんな授業が図工・美術のいい授業だろうか？  
 釧路はいつも、全道各地より先生方に来ていただき、授業を考えできました。  
 たくさんの先生方に支えられて、日々成長しています。  
 今年も、そんな一年にしたいと思います。

## 釧路造形教育研究会

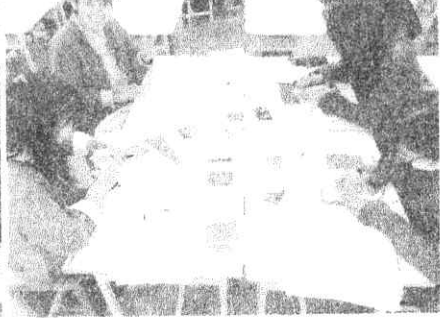
12月15日 北海道教育大学図書館釧路館にて  
 山口大学 福田 隆眞先生 演題「地域からの美術教育」



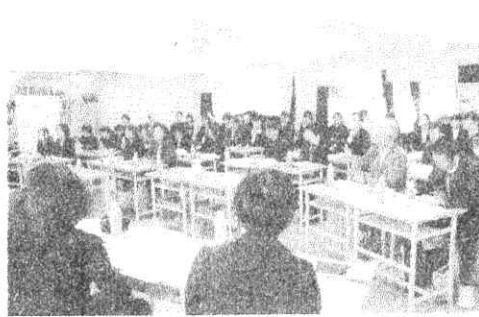
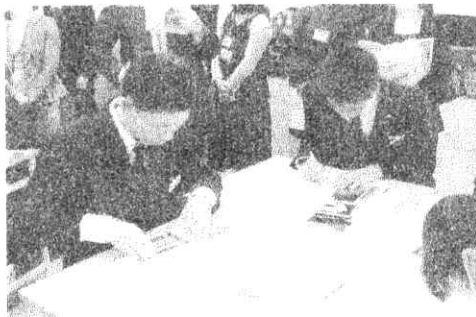
お持ちしてました  
 福田先生！釧路で  
 は貴重な講演会  
 の機会となりました。  
 美術教育の意  
 味を考える数時  
 間でした。

理論研修 1月26日 北海道教育大学附属釧路中学校美術室にて  
 北海道立釧路芸術館 福地学芸員 「現代美術講座」及び「アートカードづくり」

釧路ではアートカードが大活躍！いつも貸し出し中です（拠点校は附国中）。今年で8年目となります！釧路近郊でも貸し出せます！



授業研 年間3回！ 10月31日（水）  
 北海道教育大学附属釧路小・中学校研究会 兼 釧路市学校教育研究会図工・美術部会



全道の先生方！いつも釧路を支えていただいております！授業研ではいつも釧路にパワーを頂いております！たくさんの方々のご意見は、釧路の宝です！

今年もたくさん  
 授業研やります！

10月23日（水）午後より 附属釧路小学校・中学校の授業公開  
 今年は、教科調査官の 岡田 京子先生をお招きします！  
 ぜひ、お越し下さい！釧路の紹介もご一緒して下さい！



オホーツク造形連盟 実技研修会  
「Let's 水彩画」

2018.10.15

湧別町立芭露学園 美術室  
講師 大野 忠宏 教諭

芭露学園にて小学生と中学生の両方に指導を行う大野先生に講師をお願いし、水彩画の指導法を学びました。その後は実際に1人1枚ずつ作品を描き、とても楽しい時間となりました。

## 平成30年度 活動報告

研究テーマ

# 個・創・喜・感

1人ひとりが創造的な喜びを実感するために

オホーツク造形連盟 授業公開研修会  
図工美術交流会

「デザインの扉を開く ～シャーペンにこめられた思い」

2018.7.11

北見市立高栄中学校

栗本 佳岳 教諭

身近なもののデザインやものとの関わりを探ることで、「もの」に対する人の思いについて考える授業でした。授業後には、交流会も行いました。

2019

Team Hokkaido

オホーツク造形教育連盟

